

令和 7 年度
新潟県海岸漂着物等実態調査業務

報 告 書

令和 8 年 3 月



【目 次】

1 業務概要	1
1.1 委託業務名.....	1
1.2 目的.....	1
1.3 委託期間.....	1
1.4 委託業務の内容.....	1
1.5 調査地点.....	2
1.6 委託者.....	2
1.7 受託者.....	2
1.8 工程表.....	3
2 調査方法	4
2.1 海岸漂着物等実態調査.....	4
2.2 廃棄物処理について.....	7
2.3 調査地点.....	7
2.4 調査日.....	11
3 調査結果	11
3.1 漂着ごみの回収前後の写真	11
3.2 回収物の分類.....	21
4 地域別に見た特徴	74
4.1 材質別.....	74
4.2 プラスチック類分類別.....	78
4.3 言語表記等の調査.....	81
4.4 地域別の特徴	86
4.5 本土側と島嶼部の相違点.....	86
5 過年度との比較	88
5.1 荒井浜海岸.....	88
5.2 直江津港西海岸.....	91
5.3 素浜海岸	94

1 業務概要

1.1 委託業務名

令和 7 年度新潟県海岸漂着物等実態調査業務

1.2 目的

本業務は、新潟県内の海岸漂着物について実態を調査し、発生抑制策を検討する際の資料とすることを目的とした。

1.3 委託期間

令和 8 年 1 月 23 日から令和 8 年 3 月 24 日。

1.4 委託業務の内容

業務内容は、海岸漂着物等実態調査とした。

1.5 調査地点

調査対象海岸は、荒井浜海岸（胎内市荒井浜地内）、直江津港西海岸（上越市五智2丁目地内）、及び素浜海岸（佐渡市小比叡地内）の3海岸とした。

履行場所を図 1.1 に示す。

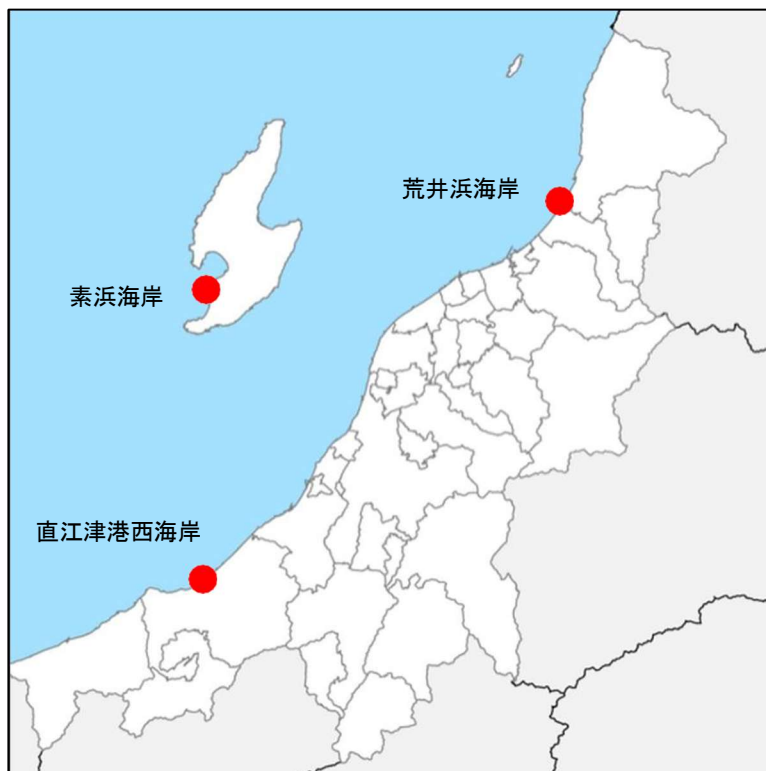


図 1.1 履行場所（●は調査地点を示す）

1.6 委託者

新潟県 代表者 新潟県知事 花角 英世
〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1
TEL：025-285-5511

1.7 受託者

株式会社N S S 代表取締役社長 永井 信哉
〒959-0232 新潟県燕市吉田東栄町8-11
TEL：0256-78-7611 FAX：0256-78-7622

1.8 工程表

工程表を表 1.1 に示す。

表 1.1 工程表

項目別 年月日	令和8年									備考
	1月			2月			3月			
打合せ			●							着手時
計画準備										
海岸漂着物等実態調査										2/20～2/27に実施
分別、報告書作成										
打合せ									●	成果品納入時

2 調査方法

2.1 海岸漂着物等実態調査

県内 3 海岸において、海岸漂着物の種類ごとの数、重量、表記を調査し、新潟県の海岸漂着物の実態を把握した。

(1) 調査対象海岸は、荒井浜海岸(胎内市荒井浜地内)、直江津港西海岸(上越市五智2丁目地内)及び素浜海岸(佐渡市小比叡地内)の 3 海岸とした。

(2) 調査は各海岸で 1 回実施した。

(3) 調査対象海岸内に、漂着物の代表的な状況が把握できるように調査区画を設定した。調査区画は、原則として海岸線沿の連続した 50m とした。当該の海岸に漂着した漂着物のすべてを捕捉するため、奥行きは砂浜を含むほか、風による漂着物の飛散を考慮し、植生地点から陸地方向に向かって更に 15m を調査の範囲とした。調査にあたっては、杭、ロープ等で調査の範囲を明確にした。なお、調査区画の位置は調査範囲の中心点の緯度及び経度情報を取得した。

(4) 調査区画内の漂着物を回収し、表 2.1 に示す記録表に従って分類した上で、個数と重量又は容量を測定した。プラスチック類について、表 2.2 に示す組成(容器包装、海域由来、製品、その他)で分けし、分類した。言語表記等調査として、ペットボトル、ペットボトルのキャップ、浮子(ブイ)については、表 2.3 に示す記録表に従って、記載されたバーコードやラベル等の表記が読み取れるものについては、言語の特定、再分類を行い、個数を測定した(日本語、ハングル、中国語、ロシア語、英語、その他の言語、不明)。

(5) 調査対象は、長さ 2.5cm 以上の漂着物とした。ただし、2.5cm 未満であっても、製品の判別が可能なもの(カキ養殖用まめ管、たばこの吸い殻(フィルター)、釣り針、個包装の飴の袋など)は、調査対象とした。

(6) 調査は、海岸管理等による海岸漂着物の回収・処理前に実施した。

表 2.1 調査記録表

漂着ごみ データシート

都道府県名： _____

実施者： _____

調査海岸： _____ 市町村 _____ 海岸 _____

調査実施日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 月 _____ 日

回収開始時刻： _____ 時 _____ 分

回収終了時刻： _____ 時 _____ 分

回収作業人数： _____ 人

調査海岸の奥行き(平均)： _____ m

海岸基質： ☐ 砂浜 ☐ 礫浜 ☐ 磯浜 ☐ その他 ()

調査地点 中心点： N _____ E _____

※小数点第5位まで記載(例：N35.00000、E135.00000)

清掃： ☐ 3ヶ月以内に実施 ☐ 1年以内に実施

台風・豪雨： ☐ 1ヶ月以内 ☐ 3ヶ月以内

重機の使用： ☐ 無 ☐ 有(バックホウ ☐ 台、ユニック ☐ 台 その他())

奥行き方向の回収範囲 ☐ 全範囲 ☐ 一部範囲 (_____ m)

河口付近： ☐ 島嶼地域： ☐

大分類	必須項目	個数	容量(L)	重量(kg)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた			
	ボトル			
	飲料用(ペットボトル)<1L			
	その他のプラボトル<1L			
	飲料用(ペットボトル)≥1L			
	その他のプラボトル類≥1L			
	ストロー			
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等			
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)			
	ポリ袋(不透明、透明)			
	ライター			
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)			
	シートや袋の破片			
	硬質プラスチック破片			
	ウレタン			
	浮子(ブイ)(漁具)			
	ロープ・ひも(漁具)			
	アナゴ筒(フタ、筒)(漁具)			
	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)			
	カキ養殖用パイプ(長さ10~20cm)(漁具)			
	漁網(漁具)			
	その他の漁具(漁具)			
	釣具			
	たばこ吸殻(フィルター)			
	生活雑貨(歯ブラシ等)			
	苗木ポット			
	その他(シリンジ、注射器)			
	その他			
(発泡スチロール)	コップ、食品容器			
	発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)			
	発泡スチロールの破片			
	発泡スチロール製包装材			
	その他			
ゴム	ゴム			
ガラス、陶器	ガラス、陶器			
金属	金属			
紙、ダンボール	紙、ダンボール			
天然繊維、革	天然繊維、革			
木(木材等)	木(木材等)			
電化製品、電子機器	電化製品、電化機器			
自然物	自然物			
その他	その他			
人力で動かせない物	緯度： _____ 経度： _____ ごみの種類()			

表 2.2 プラスチック類の組成分類

大分類	分類		組成の分類
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた		容器、包装
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	
		その他のプラボトル<1L	
		飲料用(ペットボトル)≥1L	
		その他のプラボトル類≥1L	
	ストロー		製品
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等		
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)		容器、包装
	ポリ袋(不透明、透明)		
	ライター		製品
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)		容器、包装
	シートや袋の破片		
	硬質プラスチック破片		
	ウレタン		その他
	浮子(ブイ)(漁具)		海域由来
	ローブ・ひも(漁具)		
	アナゴ筒(フタ、筒)(漁具)		
	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)		
	カキ養殖用パイプ(長さ10～20cm)(漁具)		
	漁網(漁具)		
	その他の漁具(漁具)		
	釣具		
	たばこ吸殻(フィルター)		製品
	生活雑貨(歯ブラシ等)		
	苗木ポット		容器、包装
	その他(シリンジ、注射器)		製品
	その他		その他

表 2.3 調査記録表

言語表記等調査のデータシート									
調査実施日：_____ 調査地点：_____									
ペットボトル				ペットボトルのキャップ			漁業用の浮子（プラ以外を含む。）		
項目	バーコード記載/表記言語 (最初の2ケタ or 3ケタ)	製造国	個数	項目	表記言語	個数	項目	表記言語	個数
ペット ボト ル	49 or 45	日本		ペ ット ボ ト ル の キ ャ ッ プ	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)		漁 業 用 の 浮 子	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)	
	69	中国			中国・台湾(漢字)			中国・台湾(漢字)	
	880	韓国			韓国(ハングル)			韓国(ハングル)	
	471	台湾			ロシア(ロシア語)			ロシア(ロシア語)	
	46	ロシア			不明(文字読取れず)			不明(文字読取れず)	
	不明(バーコード読取れず)	ー			(表記言語) 英語			(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 ()				(表記言語) フランス			(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 ()				(表記言語) 何語かわからず			(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 ()				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	中国・台湾(漢字)				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	韓国(ハングル)				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	ロシア(ロシア語)				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	不明(文字読取れず)	ー			(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) _____				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) _____				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) _____				(表記言語) _____			(表記言語) _____	

2.2 廃棄物処理について

調査のために回収した海岸漂着物等については、調査に伴って発生した産業廃棄物または一般廃棄物として、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従い、適切に処理した。

なお、人力で回収できない大きさの漂着物を見つけた場合には、写真を撮影し、漂着物の項目(流木など)、容積が把握できる寸法を報告した。

2.3 調査地点

調査対象海岸を、表 2.4 に、調査範囲を記載した地図を図 2.1～2.3 に示した。

表 2.4 調査対象海岸

市名	海岸名	海岸線 (m)	砂浜部 (m)	植生部 (m)	調査範囲の中心点の緯度/経度
胎内市	荒井浜海岸	50	21	15	N 38.10812 / E 139.37462
上越市	直江津港西海岸	50	13	15	N 37.17391 / E 138.23093
佐渡市	素浜海岸	50	22	15	N 37.85068 / E 138.27126



図 2.1 調査区画(荒井浜海岸)



図 2.2 調査区画(直江津港西海岸)

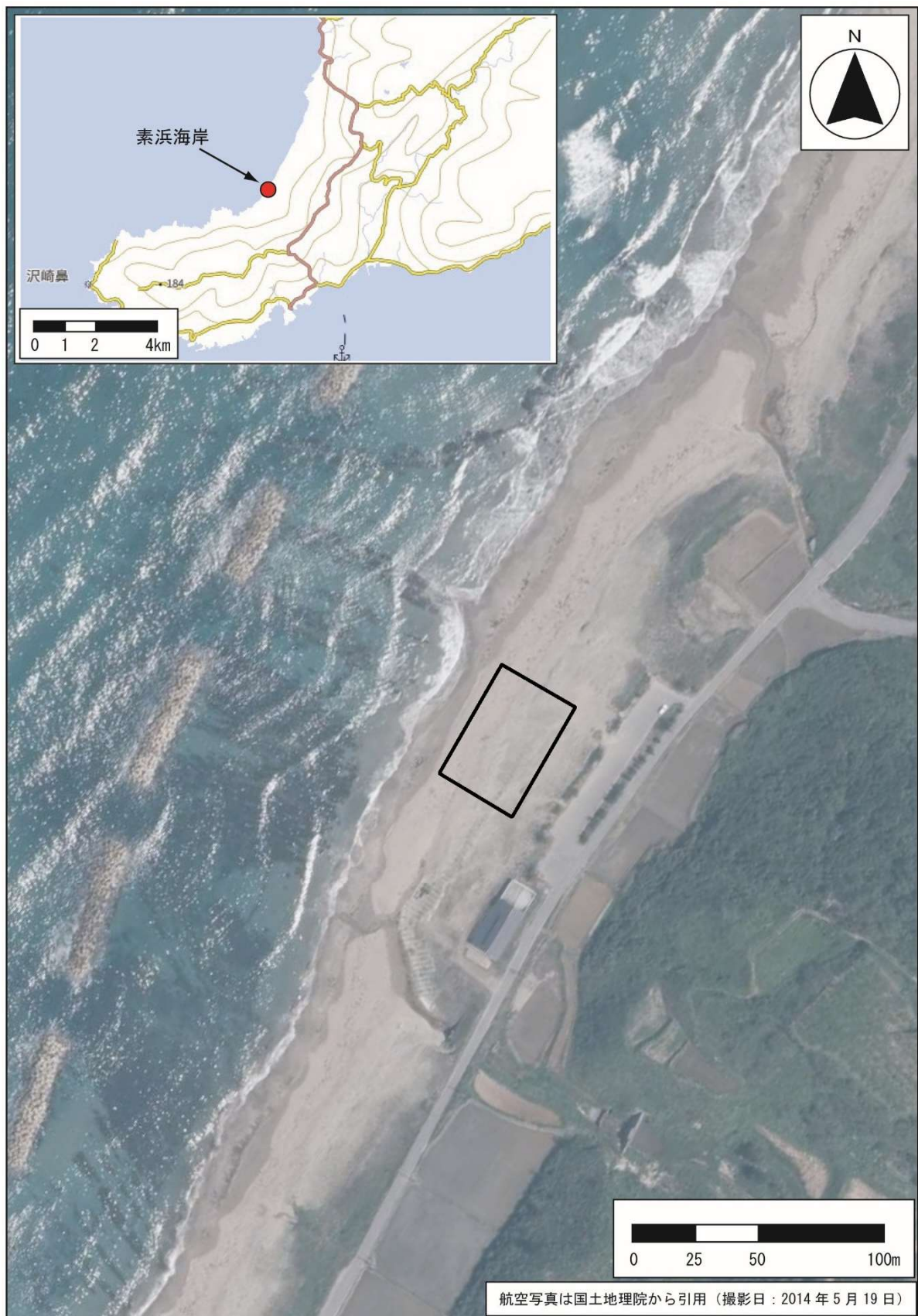


図 2.3 調査区画(素浜海岸)

2.4 調査日

調査日は、表 2.5 に示すとおりである。

表 2.5 調査日

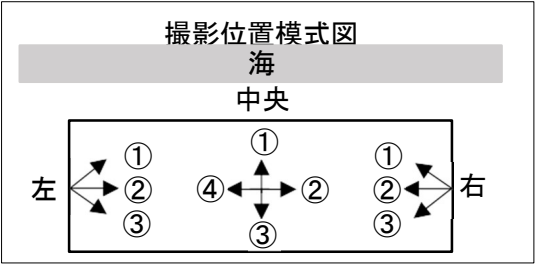
市名	地点名	調査日
胎内市	荒井浜海岸	令和8年2月20日
上越市	直江津港西海岸	令和8年2月27日
佐渡市	素浜海岸	令和8年2月25日

3 調査結果

3.1 漂着ごみの回収前後の写真

各調査対象海岸における海岸漂着物等の回収前後の写真を以下に示した。

(1) 荒井浜海岸（胎内市）

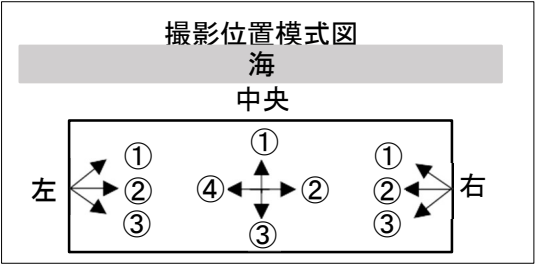


地点	回収前	回収後
左①		
左②		
左③		

地点	回収前	回収後
中央①		
中央②		
中央③		
中央④		

地点	回収前	回収後
右①		
右②		
右③		

(2) 直江津港西海岸（上越市）

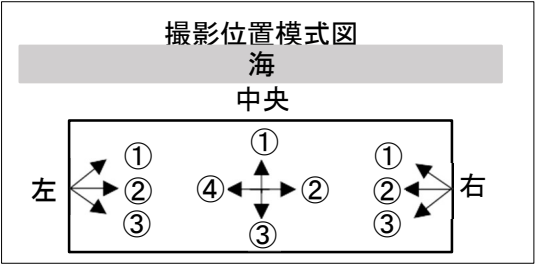


地点	回収前	回収後
左①		
左②		
左③		

地点	回収前	回収後
中央①		
中央②		
中央③		
中央④		

地点	回収前	回収後
右①		
右②		
右③		

(3) 素浜海岸（佐渡市）



地点	回収前	回収後
左①		
左②		
左③		

地点	回収前	回収後
中央①		
中央②		
中央③		
中央④		

地点	回収前	回収後
右①		
右②		
右③		

3.2 回収物の分類

各調査対象海岸における海岸漂着物等の分類結果を以下に示した。

(1) 荒井浜海岸(胎内市)

荒井浜海岸は、北西向きの玉石混じりの長い砂浜海岸で、海水浴場等の整備は行われていない。胎内市荒井浜森林公園に隣接しており、公園道路から行くことができる。また、定期的な清掃は実施されていない。

荒井浜海岸の漂着ごみのデータシートを表3.1に、人力で回収できない漂着物を表3.2に示す。また、材質別回収量を表3.3及び図3.1、図3.2、プラスチック分類別回収(容器包装、海域由来、製品、その他)を表3.4及び図3.3、図3.4に、言語由来等の調査のデータシートを表3.5、ペットボトルを図3.5、ペットボトルのキャップを図3.6、漁業用浮子を図3.7に示す。

結果の概要は以下の通りである。

○材質別回収量

個数は自然物が最も多く、次いでプラスチック類となっていた。

重量はプラスチック類が最も重く、次いで自然物となっていた。

○プラスチック類に限定した分類別組成

個数は容器包装が最も多く、次いで海域由来となっていた。

重量は海域由来が最も重く、次いでその他となっていた。

○言語別表記等調査

ペットボトルは不明を除くと中国・台湾表記が最も多く、次いで日本表記となっていた。

ペットボトルのキャップは不明を除くと中国・台湾表記が最も多く、次いで韓国表記となっていた。

漁業用の浮子は不明を除くと中国・台湾表記が大半となっていた。

回収物の分類及び人力回収不可漂着物の写真を図3.8に示す。

表 3.1 漂着ごみ データシート(荒井浜海岸)

漂着ごみ データシート				
都道府県名：新潟県		調査海岸の奥行き(平均)：40 m		
実施者：株式会社NSS		海岸基質： ☒ 砂浜 ☐ 礫浜 ☐ 磯浜 ☐ その他()		
調査海岸：胎内市 荒井浜 海岸		調査地点 中心点：N 38.10812 E 139.37462		
調査実施日：2026年2月20日～2月20日		※小数点第5位まで記載(例：N35.00000、E135.00000)		
回収開始時刻：9 時 30 分		清掃： ☐ 3ヶ月以内に実施 ☐ 1年以内に実施		
回収終了時刻：14 時 30 分		台風・豪雨： ☐ 1ヶ月以内 ☐ 3ヶ月以内		
回収作業人数：5 人		重機の使用： ☒ 無 ☐ 有(バックホウ ☐ 台、ユニック ☐ 台 その他())		
		奥行き方向の回収範囲 ☐ 全範囲 ☒ 一部範囲 (36 m)		
		河口付近： ☒ 島嶼地域： ☐		
大分類	必須項目	個数	容量(L)	重量(kg)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	210		0.971
	ボトル			
	飲料用(ペットボトル)<1L	64		6.454
	その他のプラボトル<1L	42		2.797
	飲料用(ペットボトル)≥1L	11		3.210
	その他のプラボトル類≥1L	5		4.963
	ストロー	11		0.015
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	13		0.030
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	48		0.542
	ポリ袋(不透明、透明)	41		0.904
	ライター	27		0.294
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	20		0.175
	シートや袋の破片		30	0.741
	硬質プラスチック破片		180	12.623
	ウレタン	4		0.044
	浮子(ブイ)(漁具)	83		32.040
	ロープ・ひも(漁具)	115		16.014
	アナゴ筒(フタ、筒)(漁具)	35		1.806
	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	1		0.001
	カキ養殖用パイプ(長さ10～20cm)(漁具)	2		0.359
	漁網(漁具)	9		1.537
	その他の漁具(漁具)	49		0.868
	釣具	16		0.122
	たばこ吸殻(フィルター)	0		0.000
	生活雑貨(歯ブラシ等)	2		0.015
	苗木ポット	6		0.034
その他(シリンジ、注射器)	1		0.001	
その他	28		31.597	
(発泡スチロール)	コップ、食品容器	2		0.006
	発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)	3		0.433
	発泡スチロールの破片		10	0.902
	発泡スチロール製包装材	0		0.000
	その他	0		0.000
ゴム	ゴム	30		4.454
ガラス、陶器	ガラス、陶器	20		2.658
金属	金属	15		0.519
紙、ダンボール	紙、ダンボール	0		0.000
天然繊維、革	天然繊維、革	4		0.361
木(木材等)	木(木材等)	18		36.690
電化製品、電子機器	電化製品、電化機器	5		0.510
自然物	自然物	1,417	760	108.440
その他	その他			
人力で動かせない物	緯度： 経度： ごみの種類()			691.241

表 3.2 人力で回収できない漂着物(荒井浜海岸)

項目	縦 (m)	横 (m)	高さ (m)	体積 (m3)	重量 (kg)	緯度経度
ロープ・ひも①	2.80	0.60	0.40	0.672	114.240	N38.10812/E139.37458
ロープ・ひも②	1.60	0.40	0.40	0.256	43.520	N38.10813/E139.37465
ロープ・ひも③	0.85	0.27	0.25	0.057	9.754	N38.10803/E139.37453

項目	直径 (m)	長さ (m)	体積 (m3)	重量 (kg)	緯度経度
流木①	0.20	3.15	98.960	36.615	N38.10804/E139.37455
流木②	0.20	1.80	56.549	20.923	N38.10801/E139.37454
流木③	0.33	0.80	68.424	25.317	N38.10801/E139.37451
流木④	0.40	0.80	100.531	37.196	N38.10801/E139.37451
流木⑤	0.22	2.20	83.629	30.943	N38.10798/E139.37454
流木⑥	0.15	1.70	30.041	11.115	N38.10795/E139.37453
流木⑦	0.25	1.30	63.814	23.611	N38.10792/E139.37450
流木⑧	0.33	1.25	106.912	39.558	N38.10792/E139.37448
流木⑨	0.13	3.20	42.474	15.716	N38.10790/E139.37448
流木⑩	0.18	2.20	55.983	20.714	N38.10791/E139.37447
流木⑪	0.35	1.52	146.241	54.109	N38.10807/E139.37460
流木⑫	0.38	0.35	39.694	14.687	N38.10808/E139.37458
流木⑬	0.11	3.70	35.162	13.010	N38.10804/E139.37467
流木⑭	0.22	1.07	40.674	15.049	N38.10810/E139.37462
流木⑮	0.21	1.72	59.574	22.042	N38.10816/E139.37465
流木⑯	0.21	5.82	201.582	74.585	N38.10815/E139.37465
流木⑰	0.18	3.98	101.279	37.473	N38.10818/E139.37465
流木⑱	0.19	1.36	38.560	14.267	N38.10824/E139.37468
流木⑲	0.13	3.42	45.394	16.796	N38.10823/E139.37467

表 3.3 材質別回収量(荒井浜海岸)

材質	個数	個数割合	重量(kg)	重量割合
プラスチック類	843	35.8%	118.157	43.3%
発泡スチロール類	5	0.2%	1.341	0.5%
ゴム類	30	1.3%	4.454	1.6%
ガラス、陶器	20	0.8%	2.658	1.0%
金属	15	0.6%	0.519	0.2%
紙類	0	0.0%	0.000	0.0%
天然繊維、革	4	0.2%	0.361	0.1%
木(木材等)	18	0.8%	36.690	13.4%
電化製品、電子機器	5	0.2%	0.510	0.2%
自然物	1,417	60.1%	108.440	39.7%
合計	2,357	100.0%	273.130	100.0%

※プラスチック類、発泡スチロール類の破片について、個数は除外した。

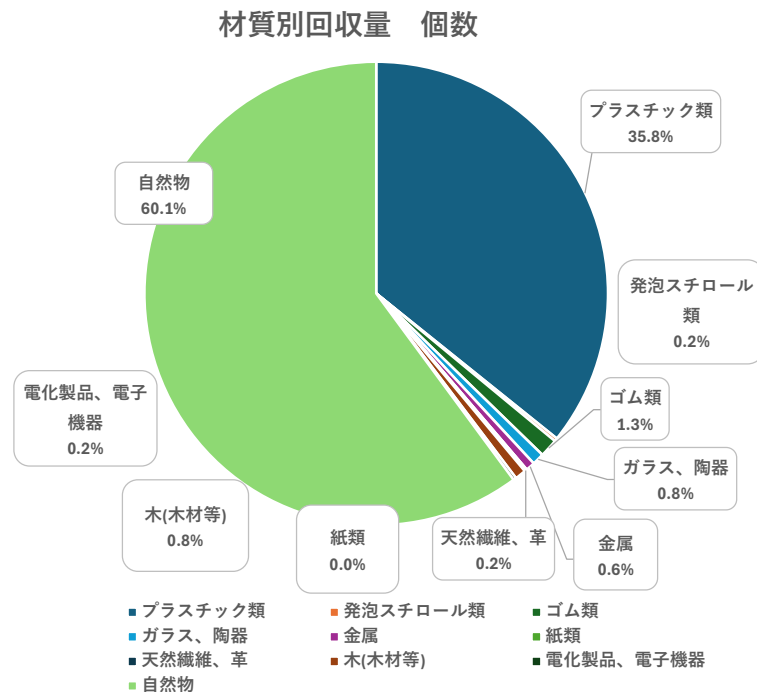


図3.1 材質別回収量(荒井浜海岸 個数)

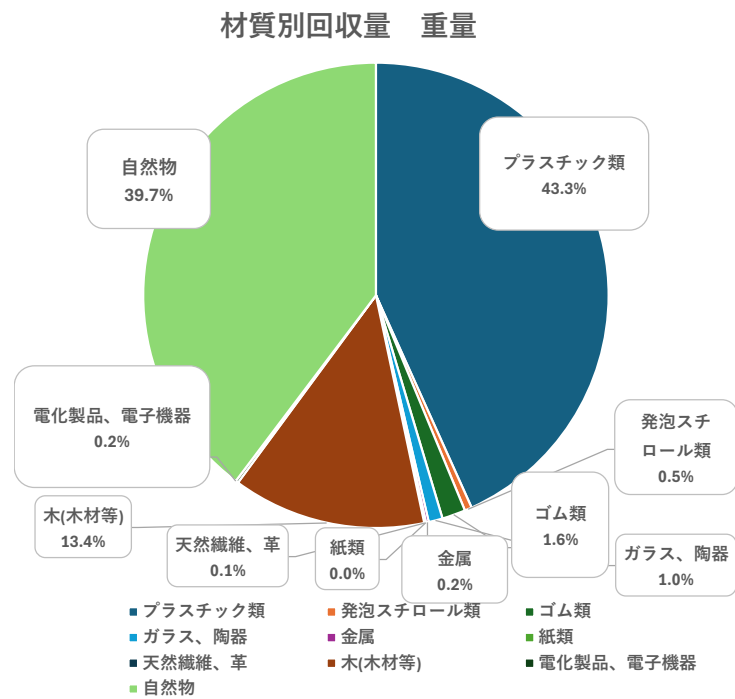


図3.2 材料別回収量(荒井浜海岸 重量)

表 3.4 プラスチックの分類別の組成(荒井浜海岸)

分類	個数(個)	個数割合	重量(kg)	重量割合
容器包装	447	53.0%	20.050	19.1%
海域由来	310	36.8%	52.747	50.4%
製品	54	6.4%	0.355	0.3%
その他	32	3.8%	31.641	30.2%
合計	843	100.0%	104.793	100.0%

※破片については個数、重量を除外した。

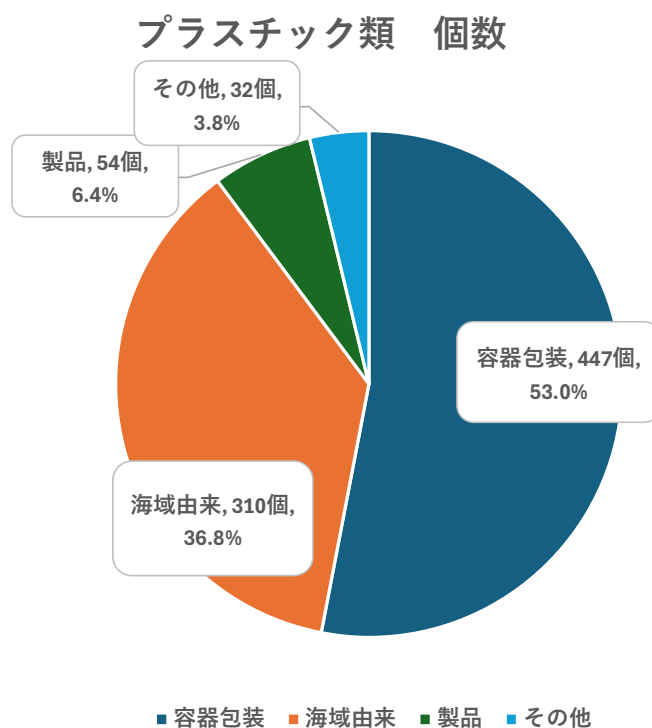


図3.3 プラスチック類の分類(荒井浜海岸 個数)

プラスチック類 重量

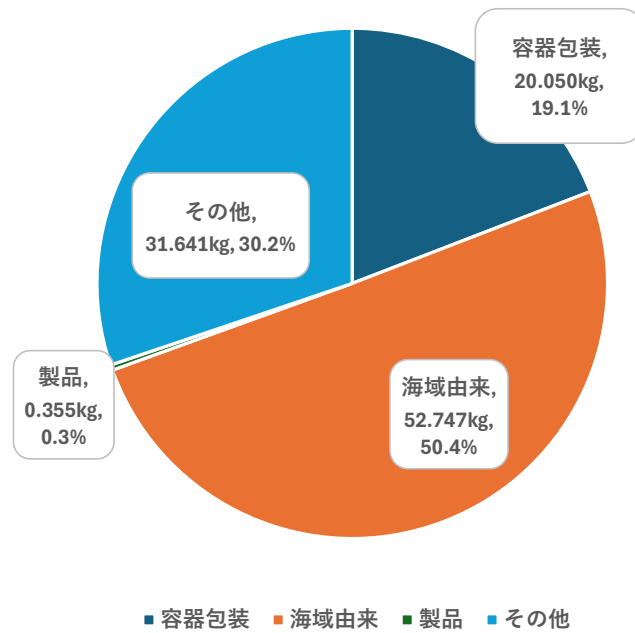


図3.4 プラスチック類の分類(荒井浜海岸 重量)

表 3.5 言語表記調査(荒井浜海岸)

言語表記等調査のデータシート

調査実施日：2026年2月20日 調査地点：荒井浜海岸

ペットボトル

項目	バーコード記載/表記言語 (最初の2ケタor3ケタ)	製造国	個数
ペット ボ ト ル	49 or 45	日本	2
	69	中国	3
	880	韓国	
	471	台湾	
	46	ロシア	
	不明(バーコード読取れず)	ー	
	バーコード読取可能 ()		
	バーコード読取可能 ()		
	バーコード読取可能 ()		
	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)		11
	中国・台湾(漢字)		14
	韓国(ハングル)		7
	ロシア(ロシア語)		
	不明(文字読取れず)	ー	35
	(表記言語) 英語		3
	(表記言語)		
	(表記言語)		

ペットボトルのキャップ

項目	表記言語	個数
ペ ツ ト ボ ト ル の キ ャ ッ プ	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)	5
	中国・台湾(漢字)	14
	韓国(ハングル)	11
	ロシア(ロシア語)	
	不明(文字読取れず)	55
	(表記言語) 英語	10
	(表記言語) フランス	
	(表記言語) 何語かわからず	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	

漁業用の浮子（プラ以外を含む。）

項目	表記言語	個数
漁 業 用 の 浮 子	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)	1
	中国・台湾(漢字)	50
	韓国(ハングル)	1
	ロシア(ロシア語)	
	不明(文字読取れず)	34
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	
	(表記言語)	

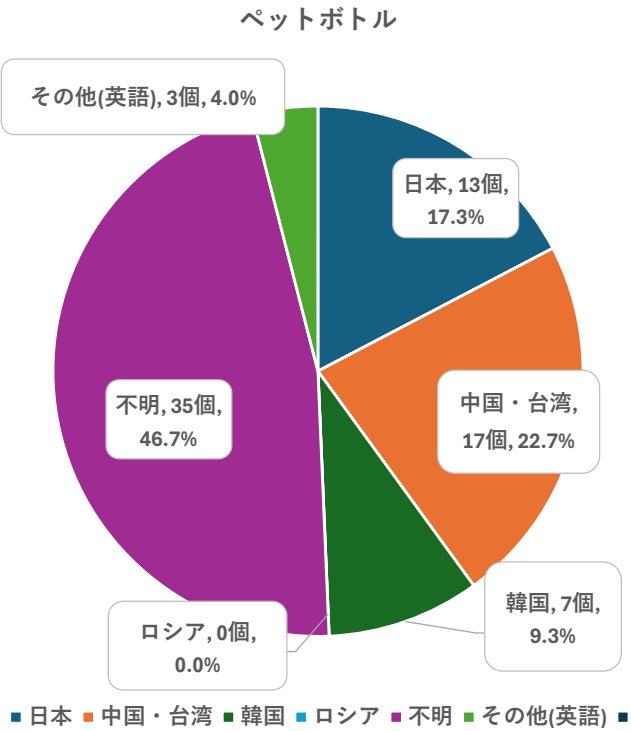


図3.5 言語表記調査 ペットボトル 荒井浜海岸

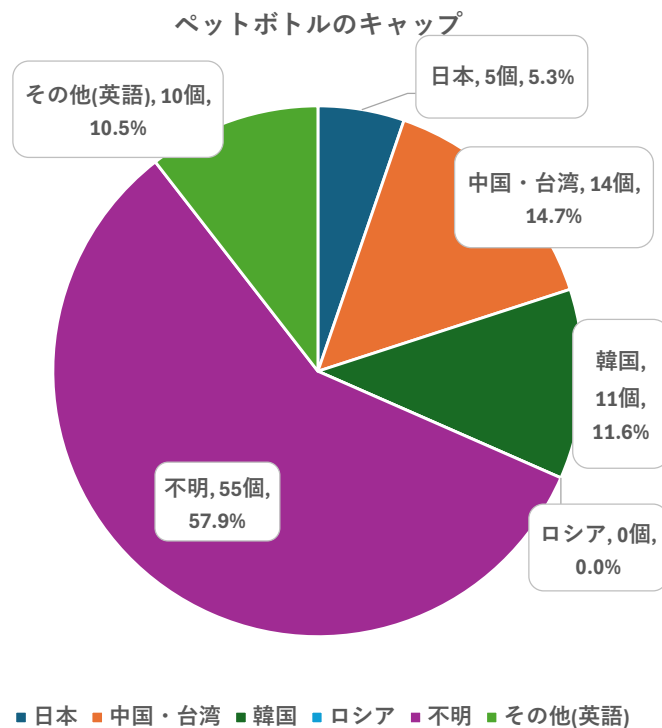


図3.6 言語表記調査 ペットボトルのキャップ 荒井浜海岸

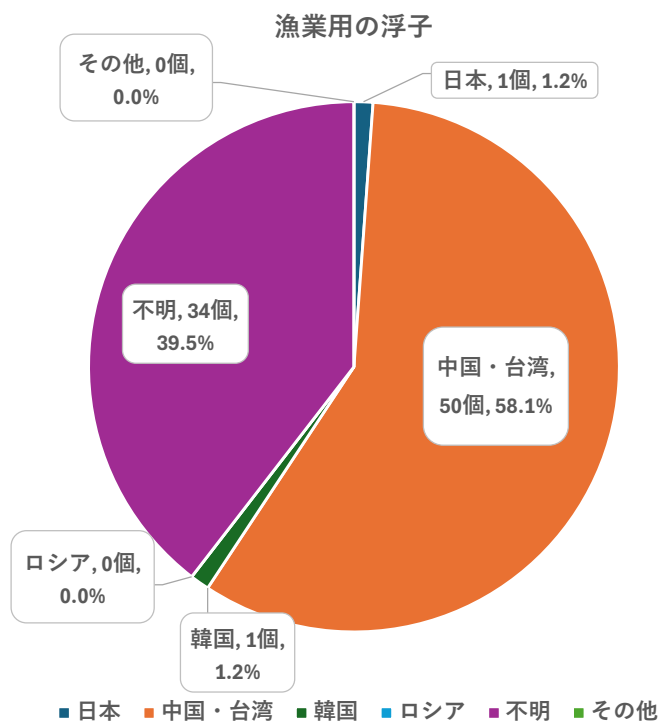


図3.7 言語表記調査 漁業用の浮子 荒井浜海岸

	
【プラスチック類】 ボトルのキャップ、ふた	【プラスチック類】 飲料用(ペットボトル) <1L
	
【プラスチック類】 その他のプラボトル<1L	【プラスチック類】 飲料用(ペットボトル) ≥1L
	
【プラスチック類】 その他のプラボトル類≥1L	【プラスチック類】 ストロー

図 3.8(1) 回収物の分類(荒井浜海岸)

	
【プラスチック類】マドラー、 フォーク、ナイフ、スプーン等	【プラスチック類】食品容器 (コップ、ランチボックス等)
	
【プラスチック類】 ポリ袋(不透明、透明)	【プラスチック類】 ライター
	
【プラスチック類】テープ (荷造りバンド、ビニールテープ)	【プラスチック類】 シートや袋の破片

図 3.8 (2) 回収物の分類(荒井浜海岸)

	
【プラスチック類】 硬質プラスチック破片	【プラスチック類】 ウレタン
	
【プラスチック類】 ブイ (漁具)	【プラスチック類】 ロープ・ひも (漁具)
	
【プラスチック類】 アナゴ筒 (漁具)	【プラスチック類】 カキ養殖用まめ管 (長さ 1.5cm) (漁具)

図 3.8 (3) 回収物の分類 (荒井浜海岸)

	
【プラスチック類】カキ養殖用パイプ (長さ 10-20cm) (漁具)	【プラスチック類】 漁網(漁具)
	
【プラスチック類】 その他の漁具(漁具)	【プラスチック類】 釣具
	
【プラスチック類】 生活雑貨(歯ブラシ等)	【プラスチック類】 苗木ポット

図 3. 8 (4) 回収物の分類(荒井浜海岸)

	
【プラスチック類】 その他(シリンジ、注射器)	【プラスチック類】 その他
	
【発泡スチロール類】 コップ、食品包装	【発泡スチロール類】 フロート、ブイ
	
【発泡スチロール類】 破片	【ゴム類】 ゴム

図 3.8 (5) 回収物の分類(荒井浜海岸)

	
【ガラス、陶器】 ガラス、陶器	【金属】 その他
	
【天然繊維・革】 天然繊維・革	【木(木材等)】 木(木材等)
	
【電化製品、電子機器】 電化製品、電化機器	【自然物】 自然物①

図 3.8 (6) 回収物の分類(荒井浜海岸)

	
【自然物】 自然物②	【自然物】 自然物③
	
【人力回収不可漂着物】 ロープ①	【人力回収不可漂着物】 ロープ②
	
【人力回収不可漂着物】 ロープ③	【人力回収不可漂着物】 流木①

図 3. 8 (7) 回収物の分類(荒井浜海岸)

	
【人力回収不可漂着物】 流木②	【人力回収不可漂着物】 流木③
	
【人力回収不可漂着物】 流木④	【人力回収不可漂着物】 流木⑤
	
【人力回収不可漂着物】 流木⑥	【人力回収不可漂着物】 流木⑦

図 3. 8 (8) 回収物の分類(荒井浜海岸)

	
【人力回収不可漂着物】 流木⑧	【人力回収不可漂着物】 流木⑨
	
【人力回収不可漂着物】 流木⑩	【人力回収不可漂着物】 流木⑪
	
【人力回収不可漂着物】 流木⑫	【人力回収不可漂着物】 流木⑬

図 3. 8 (9) 回収物の分類(荒井浜海岸)

	
【人力回収不可漂着物】 流木⑭	【人力回収不可漂着物】 流木⑮(下)⑯(上)
	
【人力回収不可漂着物】 流木⑰	【人力回収不可漂着物】 流木⑱
	
【人力回収不可漂着物】 流木⑲	

図 3.8(10) 回収物の分類(荒井浜海岸)

(2) 直江津港西海岸(上越市)

直江津港西海岸は、東西に延びる砂浜海岸で、上越市立水族館 うみがたりの西に位置する。定期的に海岸清掃を県が実施している。「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（令和7年5月第4版）」において一級河川・二級河川の河口中心から1km程度離すことを基本としているため、今回から調査地点の変更を行った。

直江津港西海岸の漂着ごみのデータシートを表3.6に、人力で回収できない漂着物を表3.7に示す。また、材質別回収量を表3.8及び図3.9、図3.10に示す。プラスチック分類別回収(容器包装、海域由来、製品、その他)は表3.9及び図3.11、図3.12に示す。

言語由来等の調査のデータシートを表3.10に示す。ペットボトルを図3.13、ペットボトルのキャップを図3.14、漁業用浮子を図3.15に示す。

結果の概要は以下の通りである。

○材質別回収量

個数は自然物が最も多く、次いでプラスチック類となっていた。

重量は自然物が最も重く、次いでプラスチック類となっていた。

○プラスチック類に限定した分類別組成

個数は容器包装が最も多く、次いで海域由来となっていた。

重量は容器包装が最も重く、次いで海域由来となっていた。

○言語別表記等調査

ペットボトルは不明を除くと日本表記が最も多く、次いで中国・台湾表記となっていた。

ペットボトルのキャップは不明を除くと日本表記が最も多く、次いで中国・台湾表記となっていた。

漁業用の浮子は不明を除くと中国・台湾表記であった。

回収物の分類及び人力回収不可漂着物の写真を図3.16に示す。

表 3.6 漂着ごみ データシート(直江津港西海岸)

漂着ごみ データシート					
都道府県名：新潟県		調査海岸の奥行き(平均)：35 m			
実施者：株式会社NSS		海岸基質： ☒ 砂浜 ☐ 礫浜 ☐ 磯浜 ☐ その他()			
調査海岸：上越市 直江津港西 海岸		調査地点 中心点：N 37.17391 E 138.23093			
調査実施日：2026年2月27日～2月27日		※小数点第5位まで記載(例：N35.00000、E135.00000)			
回収開始時刻：9 時 00 分		清掃： ☒ 3ヶ月以内に実施 ☐ 1年以内に実施			
回収終了時刻：14 時 00 分		台風・豪雨： ☐ 1ヶ月以内 ☐ 3ヶ月以内			
回収作業人数：4 人		重機の使用： ☒ 無 ☐ 有(バックホウ ☐ 台、ユニック ☐ 台 その他())			
		奥行き方向の回収範囲 ☐ 全範囲 ☒ 一部範囲 (28 m)			
		河口付近： ☒ 島嶼地域： ☐			
大分類	必須項目	個数	容量(L)	重量(kg)	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	52		0.118	
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	35		2.042
		その他のプラボトル<1L	13		0.370
		飲料用(ペットボトル)≥1L	3		1.041
		その他のプラボトル類≥1L	2		0.187
		ストロー	10		0.004
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	9		0.019	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	13		0.098	
	ポリ袋(不透明、透明)	15		0.113	
	ライター	5		0.059	
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	11		0.011	
	シートや袋の破片		15	0.257	
	硬質プラスチック破片		15	2.451	
	ウレタン	15		0.172	
	浮子(ブイ)(漁具)	20		0.868	
	ロープ・ひも(漁具)	40	20	1.351	
	アナゴ筒(フタ、筒)(漁具)	9		0.466	
	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	44		0.024	
	カキ養殖用パイプ(長さ10～20cm)(漁具)	0		0.000	
	漁網(漁具)	2		0.002	
	その他の漁具(漁具)	2		0.040	
	釣具	3		0.026	
	たばこ吸殻(フィルター)	8		0.001	
	生活雑貨(歯ブラシ等)	9		0.130	
	苗木ポット	4		0.017	
	その他(シリンジ、注射器)	0		0.000	
	その他	7		0.828	
	(発泡スチロール)	コップ、食品容器	2		0.002
		発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)	4		0.406
発泡スチロールの破片			30	0.828	
発泡スチロール製包装材		5		0.009	
その他		0		0.000	
ゴム	ゴム	5		0.472	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	8		1.180	
金属	金属	8		0.471	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	1		0.002	
天然繊維、革	天然繊維、革	0		0.000	
木(木材等)	木(木材等)	13		9.378	
電化製品、電子機器	電化製品、電化機器	2		0.127	
自然物	自然物	3,136	1,188	169.385	
その他	その他				
人力で動かせない物	緯度： 経度： ごみの種類()			281.862	

表 3.7 人力で回収できない漂着物(直江津港西海岸)

項目	縦 (m)	横 (m)	長さ (m)	体積 (m3)	重量 (kg)	緯度経度
木 (木材等)	0.11	0.11	1.82	22.022	8.148	N37.17395/E138.23099

項目	直径 (m)	長さ (m)	体積 (m3)	重量 (kg)	緯度経度
流木①	0.14	0.92	14.162	5.240	N37.17394/E138.23116
流木②	0.13	2.65	35.174	13.014	N37.17393/E138.23115
流木③	0.21	1.20	41.563	15.378	N37.17391/E138.23110
流木④	0.25	1.04	51.051	18.889	N37.17395/E138.23104
流木⑤	0.35	1.25	120.264	44.498	N37.17394/E138.23101
流木⑥	0.11	1.53	14.540	5.380	N37.17397/E138.23104
流木⑦	0.44	1.04	158.135	58.510	N37.17395/E138.23097
流木⑧	0.11	4.86	46.186	17.089	N37.17392/E138.23099
流木⑨	0.10	2.68	21.049	7.788	N37.17386/E138.23090
流木⑩	0.10	1.78	13.980	5.173	N37.17386/E138.23086
流木⑪	0.08	2.00	10.053	3.720	N37.17389/E138.23090
流木⑫	0.32	1.80	144.765	53.563	N37.17386/E138.23082
流木⑬	0.14	2.59	39.870	14.752	N37.17380/E138.23069
流木⑭ (竹)	0.10	2.10	16.493	10.721	N37.17370/E138.23075

表 3.8 材質別回収量(直江津港西海岸)

材質	個数	個数割合	重量(kg)	重量割合
プラスチック類	331	9.4%	10.695	5.5%
発泡スチロール類	11	0.3%	1.245	0.6%
ゴム類	5	0.1%	0.472	0.2%
ガラス、陶器	8	0.2%	1.180	0.6%
金属	8	0.2%	0.471	0.2%
紙類	1	0.1%未満	0.002	0.1%未満
天然繊維、革	0	0.0%	0.000	0.0%
木(木材等)	13	0.4%	9.378	4.9%
電化製品、電子機器	2	0.1%	0.127	0.1%
自然物	3,136	89.3%	169.385	87.9%
合計	3,515	100.0%	192.955	100.0%

※プラスチック類、発泡スチロール類の破片について、個数は除外した。

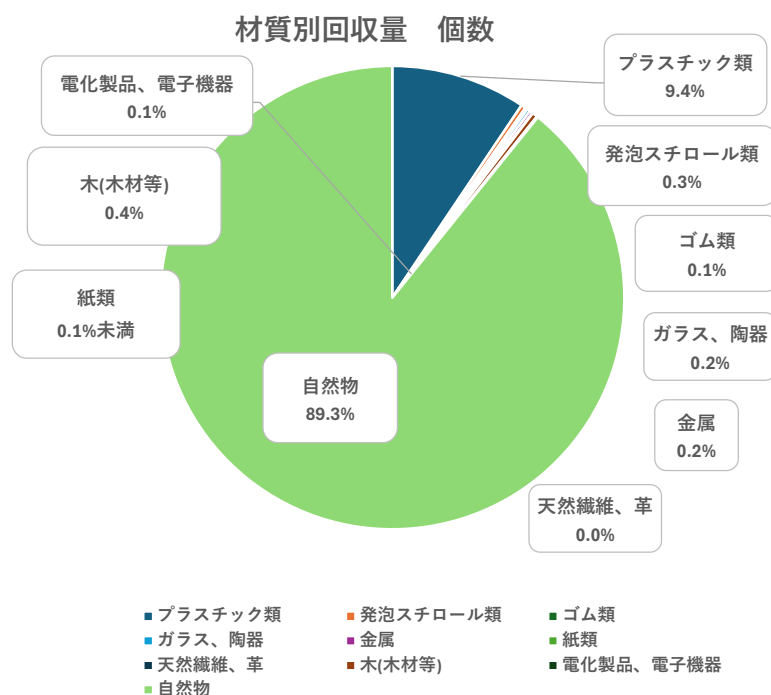


図 3.9 材質別回収量(直江津港西海岸 個数)

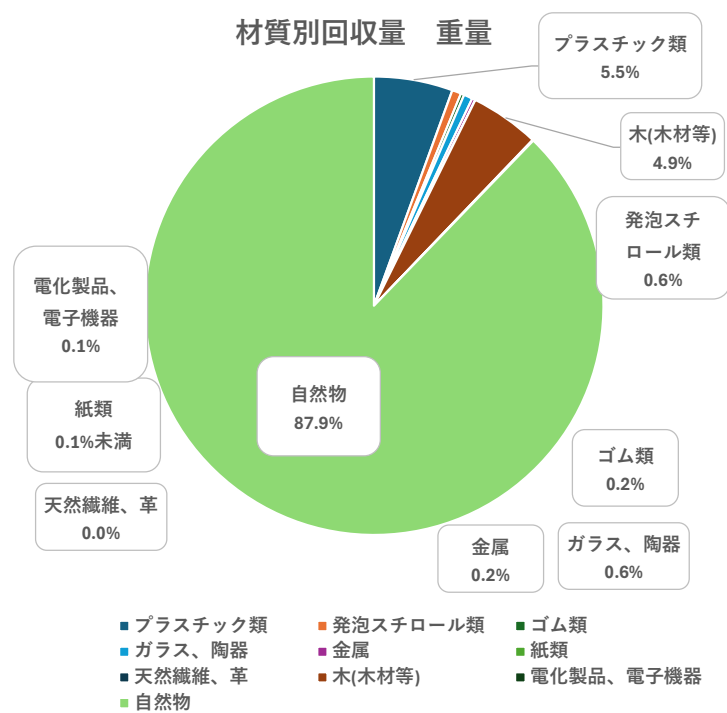


図 3.10 材質別回収量(直江津港西海岸 重量)

表 3.9 プラスチックの分類別の組成(直江津港西海岸)

分類	個数(個)	個数割合	重量(kg)	重量割合
容器包装	148	44.7%	3.997	50.0%
海域由来	120	36.3%	2.777	34.8%
製品	41	12.4%	0.213	2.7%
その他	22	6.6%	1.000	12.5%
合計	331	100.0%	7.987	100.0%

※破片については個数、重量を除外した。

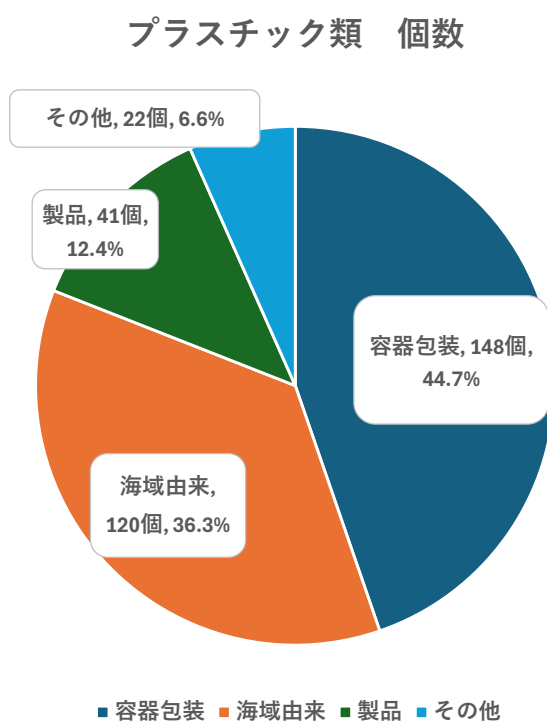


図 3.11 プラスチック類の分類(直江津港西海岸 個数)

プラスチック類 重量

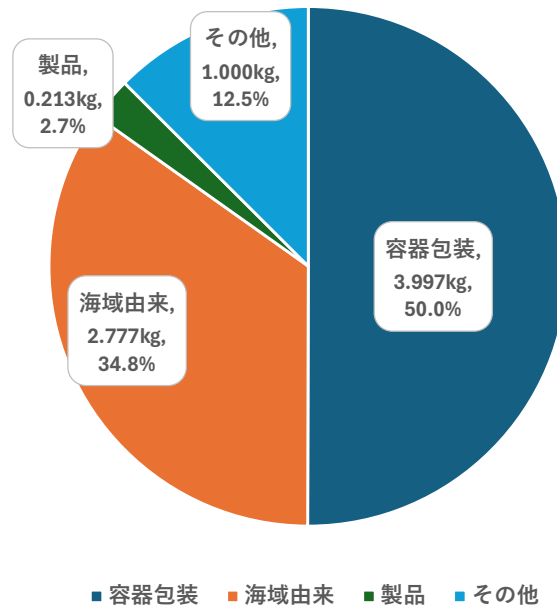


図 3.12 プラスチック類の分類(直江津港西海岸 重量)

表 3.10 言語表記調査(直江津港西海岸)

言語表記等調査のデータシート									
調査実施日： 2026年2月27日 調査地点： 直江津港西海岸									
ペットボトル				ペットボトルのキャップ			漁業用の浮子（ブラ以外を含む。）		
項目	バーコード記載/表記言語 (最初の2ケタ or 3ケタ)	製造国	個数	項目	表記言語	個数	項目	表記言語	個数
ペット ボト ル	49 or 45	日本	7	ペッ トボ トル の キャ ップ	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)	9	漁 業 用 の 浮 子	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)	
	69	中国	4		中国・台湾(漢字)	4		中国・台湾(漢字)	15
	880	韓国			韓国(ハングル)			韓国(ハングル)	
	471	台湾			ロシア(ロシア語)			ロシア(ロシア語)	
	46	ロシア			不明(文字読取れず)	15		不明(文字読取れず)	9
	不明(バーコード読取れず)	ー			(表記言語) 英語	3		(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 (95)	マレーシア	1		(表記言語) フランス			(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 ()				(表記言語) 何語かわからず			(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 ()				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)		6		(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	中国・台湾(漢字)		7		(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	韓国(ハングル)				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	ロシア(ロシア語)				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	不明(文字読取れず)	ー	11		(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) 英語		2		(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) _____				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) _____				(表記言語) _____			(表記言語) _____	

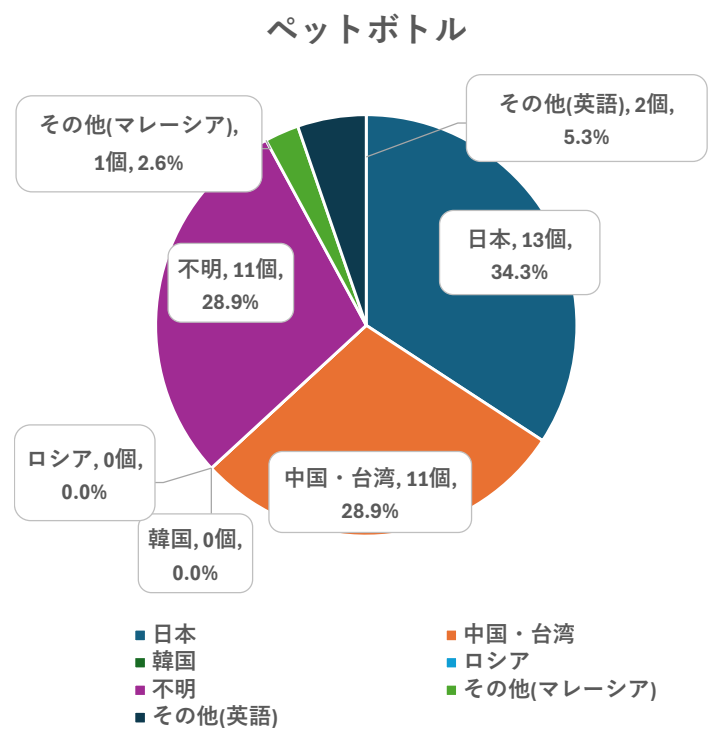


図3.13 言語表記調査 ペットボトル 直江津港西海岸

ペットボトルのキャップ

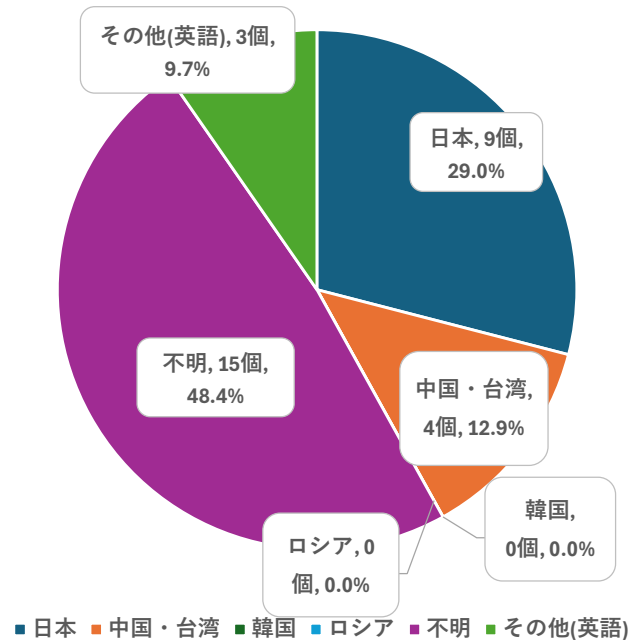


図3.14 言語表記調査 ペットボトルのキャップ 直江津港西海岸

漁業用の浮子

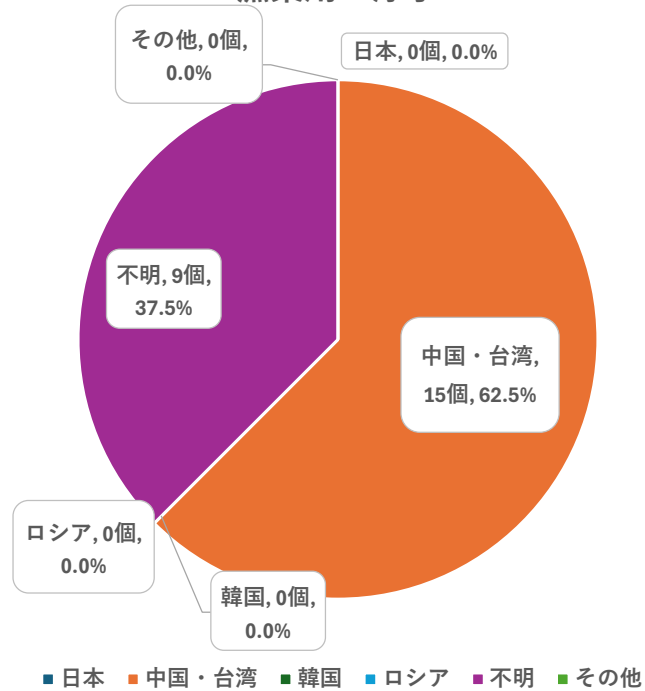


図3.15 言語表記調査 漁業用の浮子 直江津港西海岸

	
【プラスチック類】 ボトルのキャップ、ふた	【プラスチック類】 飲料用(ペットボトル) <1L
	
【プラスチック類】 その他のプラボトル<1L	【プラスチック類】 飲料用(ペットボトル) ≥1L
	
【プラスチック類】 その他のプラボトル類 ≥1L	【プラスチック類】 ストロー

図 3. 16(1) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【プラスチック類】マドラー、 フォーク、ナイフ、スプーン等	【プラスチック類】食品容器 (コップ、ランチボックス等)
	
【プラスチック類】 ポリ袋(不透明、透明)	【プラスチック類】 ライター
	
【プラスチック類】テープ (荷造りバンド、ビニールテープ)	【プラスチック類】 シートや袋の破片

図 3.16 (2) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【プラスチック類】 硬質プラスチック破片	【プラスチック類】 ウレタン
	
【プラスチック類】 浮子(ブイ) (漁具)	【プラスチック類】 ロープ・ひも (漁具)
	
【プラスチック類】 アナゴ筒 (漁具)	【プラスチック類】 カキ養殖用パイプ (長さ 1.5cm) (漁具)

図 3.16 (3) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【プラスチック類】 漁網(漁具)	【プラスチック類】 その他の漁具(漁具)
	
【プラスチック類】 釣具	【プラスチック類】 たばこ吸殻(フィルター)
	
【プラスチック類】 生活雑貨(歯ブラシ等)	【プラスチック類】 苗木ポット

図 3. 16(4) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【プラスチック類】 その他	【発泡スチロール類】 コップ、食品包装
	
【発泡スチロール類】 フロート、ブイ	【発泡スチロール類】 破片
	
【発泡スチロール類】 梱包材	【ゴム類】 ゴム

図 3.16 (5) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【ガラス、陶器】 ガラス、陶器	【金属】 金属
	
【木(木材等)】 木(木材等)	【電化製品、電子機器】 電化製品、電子機器
	
【自然物】 流木①	【自然物】 流木②

図 3.16 (6) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【自然物】 流木③	【自然物】 流木④
	
【自然物】 流木⑤	【自然物】 流木⑥
	
【自然物】 流木⑦	【人力回収不可漂着物】 木(木材等)

図 3.16(7) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【人力回収不可漂着物】 流木①	【人力回収不可漂着物】 流木②
	
【人力回収不可漂着物】 流木③	【人力回収不可漂着物】 流木④
	
【人力回収不可漂着物】 流木⑤	【人力回収不可漂着物】 流木⑥

図 3.16 (8) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【人力回収不可漂着物】 流木⑦	【人力回収不可漂着物】 流木⑧
	
【人力回収不可漂着物】 流木⑨	【人力回収不可漂着物】 流木⑩
	
【人力回収不可漂着物】 流木⑪	【人力回収不可漂着物】 流木⑫

図 3. 16 (9) 回収物の分類(直江津港西海岸)

	
【人力回収不可漂着物】 流木⑬	【人力回収不可漂着物】 流木⑭(竹)

図 3. 16 (10) 回収物の分類(直江津港西海岸)

(3) 素浜海岸(佐渡市)

素浜海岸は北西4kmにもおよぶ砂浜海岸であり、海水浴場等としての整備は行われていないが、素浜青少年海の家や素浜キャンプ場が隣接している。海岸へは佐渡市が管理する駐車場から行くことができる。また、素浜海岸は例年市により海水浴シーズン前に清掃が行われている。

素浜海岸の漂着ごみのデータシートを表3.11に、人力で回収できない漂着物を表3.12に示す。また、材質別回収量を表3.13及び図3.17、図3.18、プラスチック分類別回収(容器包装、海域由来、製品、その他)は表3.14及び図3.19、図3.20に、言語由来等の調査のデータシートを表3.15に、ペットボトルを図3.21、ペットボトルのキャップを図3.22、漁業用浮子を図3.23に示す。

結果の概要は以下の通りである。

○材質別回収量

個数はプラスチック類が最も多く、次いで自然物となっていた。

重量はプラスチック類が最も大きく、次いで自然物となっていた。

○プラスチック類に限定した分類別組成

個数は容器包装と海域由来がほぼ同数となっていた。

重量は海域由来が最も重くなっていたが、次いでその他と容器包装もほぼ同じとなっていた。

○言語別表記等調査

ペットボトルは不明を除くと中国・台湾表記が最も多く、次いで日本表記となっていた。

ペットボトルのキャップは不明を除くと中国・台湾表記と韓国表記が同数で多くなっていた。

漁業用の浮子は不明を除くと中国・台湾表記となっていた。

回収物の分類及び人力回収不可漂着物の写真を図3.24に示す。

表 3.11 漂着ごみ データシート(素浜海岸)

漂着ごみ データシート					
都道府県名：新潟県		調査海岸の奥行き(平均)：45 m			
実施者：株式会社NSS		海岸基質： ☒ 砂浜 ☐ 礫浜 ☐ 磯浜 ☐ その他()			
調査海岸：佐渡市 素浜海岸		調査地点 中心点：N 37.85068 E 138.27126			
調査実施日：2026年2月25日～2月25日		※小数点第5位まで記載(例：N35.00000、E135.00000)			
回収開始時刻：10時00分		清掃： ☐ 3ヶ月以内に実施 ☒ 1年以内に実施			
回収終了時刻：14時00分		台風・豪雨： ☐ 1ヶ月以内 ☐ 3ヶ月以内			
回収作業人数：4人		重機の使用： ☒ 無 ☐ 有(バックホウ ☐ 台、ユニック ☐ 台 その他())			
		奥行き方向の回収範囲 ☐ 全範囲 ☒ 一部範囲 (37 m)			
		河口付近： ☐ 島嶼地域： ☒			
大分類	必須項目	個数	容量(L)	重量(kg)	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	53		0.170	
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	35		2.521
		その他のプラボトル<1L	24		1.111
		飲料用(ペットボトル)≥1L	11		0.709
		その他のプラボトル類≥1L	12		1.762
		ストロー	2		0.002
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	9		0.021	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	87		2.177	
	ポリ袋(不透明、透明)	6		0.628	
	ライター	0		0.000	
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	18		0.240	
	シートや袋の破片		10	1.359	
	硬質プラスチック破片		60	5.107	
	ウレタン	0		0.000	
	浮子(ブイ)(漁具)	21		1.745	
	ロープ・ひも(漁具)	109	30	7.781	
	アナゴ筒(フタ、筒)(漁具)	46		2.576	
	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	5		0.004	
	カキ養殖用パイプ(長さ10～20cm)(漁具)	0		0.000	
	漁網(漁具)	16	10	0.578	
	その他の漁具(漁具)	38		0.604	
	釣具	7		0.047	
	たばこ吸殻(フィルター)	0		0.000	
	生活雑貨(歯ブラシ等)	3		0.049	
	苗木ポット	3		0.016	
	その他(シリンジ、注射器)	1		0.009	
	その他	21		10.554	
(発泡スチロール)	コップ、食品容器	2		0.019	
	発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)	10		2.082	
	発泡スチロールの破片		1	0.089	
	発泡スチロール製包装材	0		0.000	
	その他	0		0.000	
ゴム	ゴム	9		0.958	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	4		0.937	
金属	金属	3		1.280	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	0		0.000	
天然繊維、革	天然繊維、革	0		0.000	
木(木材等)	木(木材等)	3		24.500	
電化製品、電子機器	電化製品、電化機器	0		0.000	
自然物	自然物	122	70	26.000	
その他	その他				
人力で動かせない物	緯度： 経度： ごみの種類()			54.157	

表 3.12 人力で回収できない漂着物(素浜海岸)

項目	直径(m)	長さ(m)	体積(m3)	重量(kg)	緯度経度
ロープ	0.03	2.55	1.802	1.622	N37.85072/E138.27136
プラスチック	0.08	8.88	44.636	4.865	N37.85066/E138.27130
流木①(竹)	0.09	9.87	62.790	40.814	N37.85055/E138.27129
流木②	0.11	1.95	18.531	6.857	N37.85055/E138.27125

表 3.13 材質別回収量(素浜海岸)

材質	個数	個数割合	重量(kg)	個数割合
プラスチック類	527	77.6%	39.770	41.6%
発泡スチロール類	12	1.8%	2.190	2.3%
ゴム類	9	1.3%	0.958	1.0%
ガラス、陶器	4	0.6%	0.937	1.0%
金属	3	0.4%	1.280	1.3%
紙類	0	0.0%	0.000	0.0%
天然繊維、革	0	0.0%	0.000	0.0%
木(木材等)	3	0.4%	24.500	25.6%
電化製品、電子機器	0	0.0%	0.000	0.0%
自然物	122	17.9%	26.000	27.2%
合計	680	100.0%	95.635	100.0%

※プラスチック類、発泡スチロール類の破片について、個数は除外した。

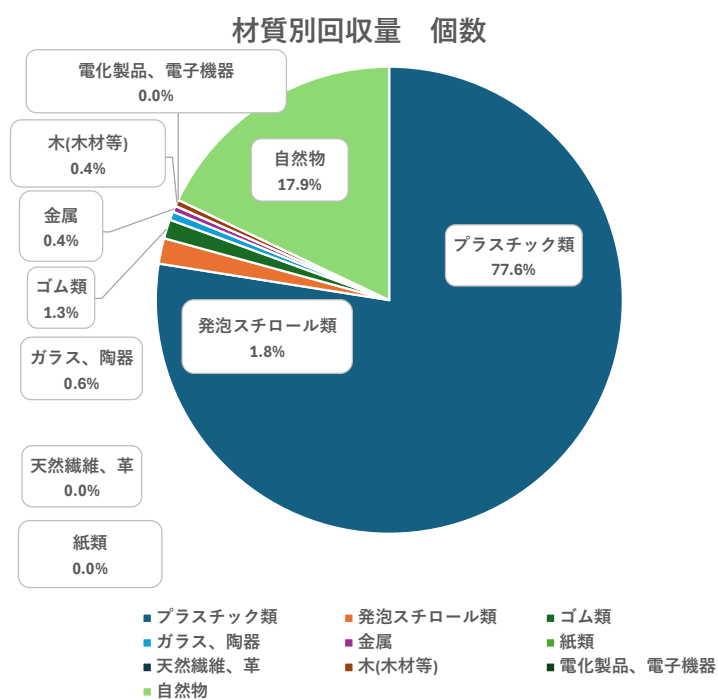


図 3.17 材質別回収量(素浜海岸 個数)

材質別回収量 重量

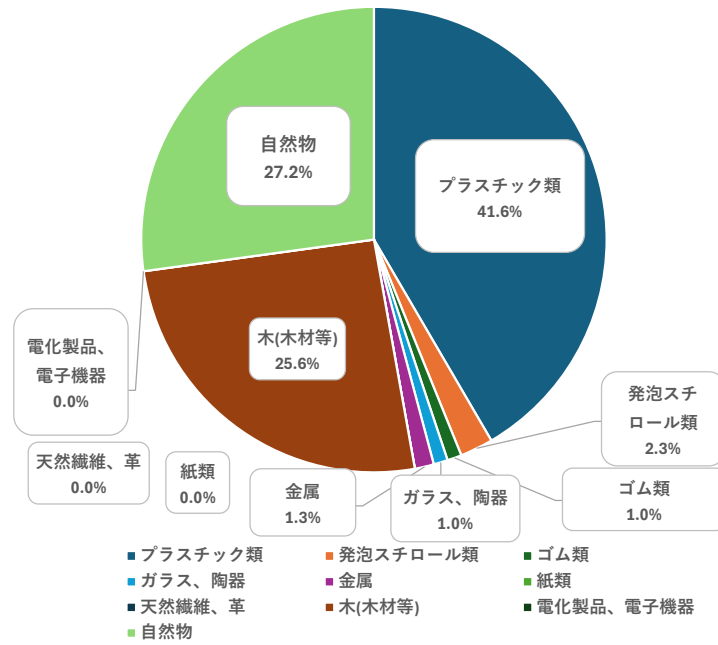


表 3.18 材質別回収量(素浜海岸 重量)

表 3.14 プラスチックの分類別の組成(素浜海岸)

分類	個数(個)	個数割合	重量(kg)	重量割合
容器包装	249	47.3%	9.334	28.0%
海域由来	242	45.9%	13.335	40.1%
製品	15	2.8%	0.081	0.2%
その他	21	4.0%	10.554	31.7%
合計	527	100.0%	33.304	100.0%

※破片については個数、重量を除外した。

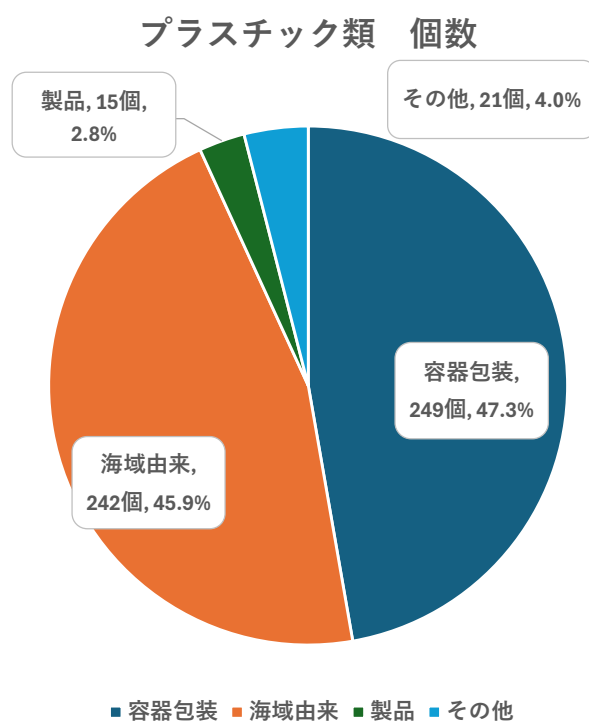


図 3.19 プラスチック類の分類(直江津港西海岸 個数)

プラスチック類 重量

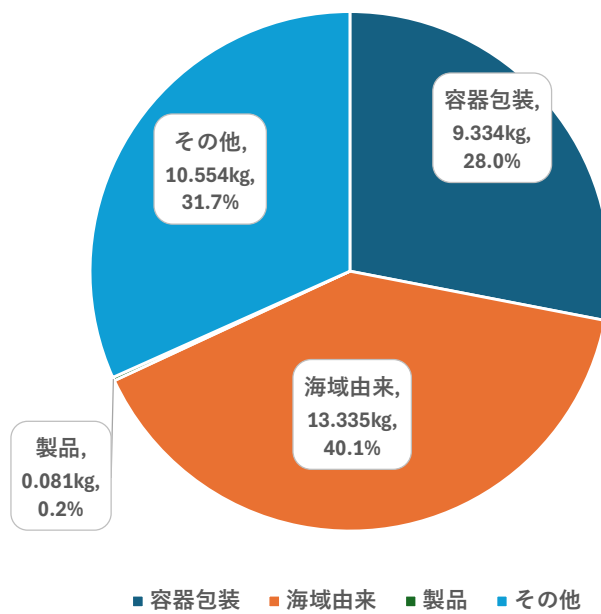


図 3.20 プラスチック類の分類(直江津港西海岸 重量)

表 3.15 言語表記調査(素浜海岸)

言語表記等調査のデータシート									
調査実施日： 2026年2月25日		調査地点： 素浜海岸							
ペットボトル				ペットボトルのキャップ			漁業用の浮子（プラ以外を含む。）		
項目	バーコード記載/表記言語 (最初の2ケタor3ケタ)	製造国	個数	項目	表記言語	個数	項目	表記言語	個数
ペット ボト ル	49 or 45	日本	4	ペ ット ボ ト ル の キ ャ ッ プ	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)		漁 業 用 の 浮 子	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)	
	69	中国	4		中国・台湾(漢字)	5		中国・台湾(漢字)	9
	880	韓国			韓国(ハングル)	5		韓国(ハングル)	
	471	台湾			ロシア(ロシア語)			ロシア(ロシア語)	
	46	ロシア			不明(文字読取れず)	13		不明(文字読取れず)	22
	不明(バーコード読取れず)	ー			(表記言語) 英語	2		(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 ()				(表記言語) フランス			(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 ()				(表記言語) 何語かわからず	3		(表記言語) _____	
	バーコード読取可能 ()				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	日本 (漢字, ひらがな, カタカナ)		1		(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	中国・台湾(漢字)		4		(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	韓国(ハングル)		2		(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	ロシア(ロシア語)				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	不明(文字読取れず)	ー	31		(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) _____				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) _____				(表記言語) _____			(表記言語) _____	
	(表記言語) _____				(表記言語) _____			(表記言語) _____	

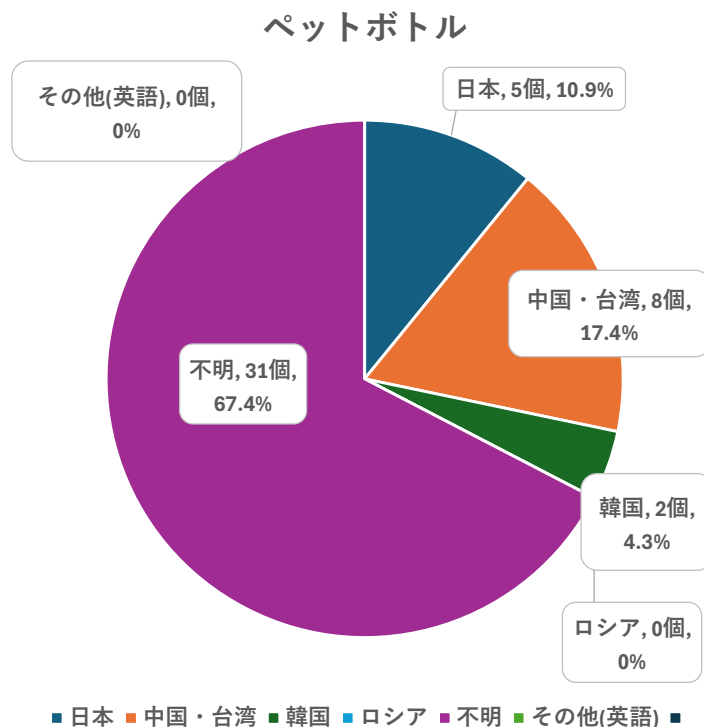


図3.21 言語表記調査 ペットボトル 素浜海岸

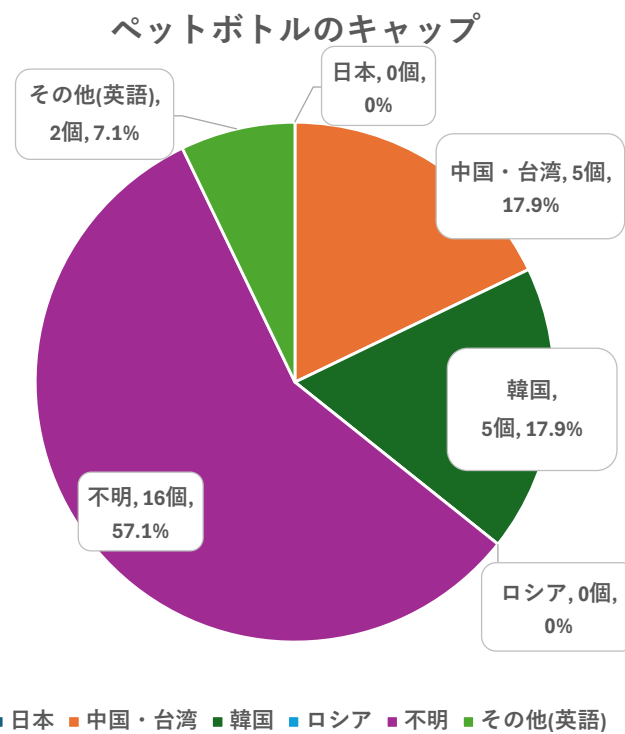


図3.22 言語表記調査 ペットボトルのキャップ 素浜海岸

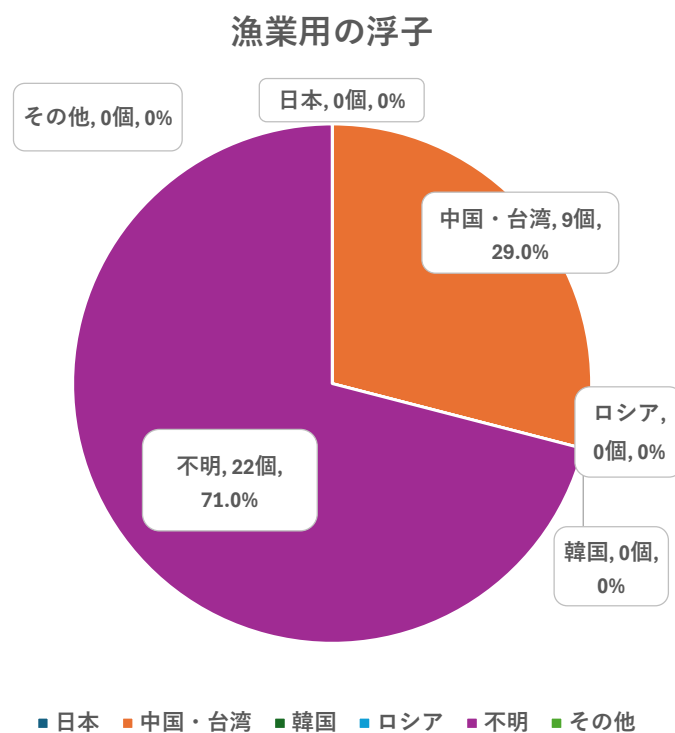


図3.23 言語表記調査 漁業用の浮子 素浜海岸

	
【プラスチック類】 ボトルのキャップ、ふた	【プラスチック類】 飲料用(ペットボトル) <1L
	
【プラスチック類】 その他のプラボトル<1L	【プラスチック類】 飲料用(ペットボトル) ≥1L
	
【プラスチック類】 その他のプラボトル類 ≥1L	【プラスチック類】 ストロー

図 3. 24 (1) 回収物の分類(素浜海岸)

	
【プラスチック類】マドラー、 フォーク、ナイフ、スプーン等	【プラスチック類】食品容器 (コップ、ランチボックス等)
	
【プラスチック類】 ポリ袋(不透明、透明)	【プラスチック類】テープ (荷造りバンド、ビニールテープ)
	
【プラスチック類】 シートや袋の破片	【プラスチック類】 硬質プラスチック破片

図 3. 24 (2) 回収物の分類(素浜海岸)

	
【プラスチック類】 ブイ (漁具)	【プラスチック類】 ロープ・ひも (漁具)
	
【プラスチック類】 アナゴ筒 (漁具)	【プラスチック類】 カキ養殖用まめ管 (長さ 1.5cm) (漁具)
	
【プラスチック類】 漁網 (漁具)	【プラスチック類】 その他の漁具 (漁具)

図 3. 24 (3) 回収物の分類 (素浜海岸)

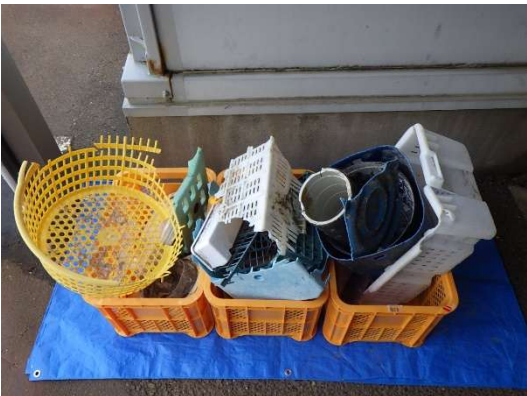
	
【プラスチック類】 釣具	【プラスチック類】 生活雑貨(歯ブラシ等)
	
【プラスチック類】 苗木ポット	【プラスチック類】 その他(シリンジ、注射器)
	
【プラスチック類】 その他	【発泡スチロール類】 コップ、食品包装

図 3. 24 (4) 回収物の分類(素浜海岸)

	
【発泡スチロール類】 フロート、ブイ	【発泡スチロール類】 破片
	
【ゴム】 ゴム	【ガラス、陶器】 ガラス、陶器
	
【金属】 金属	【木(木材等)】 木(木材等)

図 3. 24 (5) 回収物の分類(素浜海岸)

	
【自然物】 自然物	【人力回収不可漂着物】 ロープ
	
【人力回収不可漂着物】 プラスチック②	【人力回収不可漂着物】 流木①(竹)
	
【人力回収不可漂着物】 流木②	

図 3. 24 (6) 回収物の分類(素浜海岸)

4 地域別に見た特徴

地点間の比較を行い、地域別の特徴を考察した。

4.1 材質別

材質別個数を表 4.1 及び図 4.1、組成比を図 4.2、自然物を除いた材質別重量を図 4.3、組成比を図 4.4 に示す。

材質別重量を表 4.2 及び図 4.5、組成比を図 4.6、自然物を除いた材質別重量を図 4.7、組成比を図 4.8 に示す。

結果の概要は以下の通りである。

○材質別個数

総数は直江津港西海岸が最も多く、素浜海岸が最も少なかった。また、直江津港西海岸と荒井浜海岸では自然物の個数が最も多く、素浜海岸ではプラスチック類が最も多くなっていた。

自然物を除いた材質別個数は、荒井浜海岸が最も多く、直江津港西海岸が最も少なくなっていた。また、全ての地点でプラスチック類の個数が最も大きな割合を占めていた。

○材質別重量

総重量は荒井浜海岸で最も重く、素浜海岸で最も少なかった。また、荒井浜海岸と素浜海岸ではプラスチック類の重量が最も大きな割合を占めており、直江津西海岸では自然物の重量が最も大きな割合を占めていた。

自然物を除いた重量は荒井浜海岸が最も重く、直江津港西海岸で最も少なかった。また、全ての地点でプラスチック類の重量が最も大きな割合を占めていた。

表 4.1 材質別個数

材質	個数		
	荒井浜	直江津港西	素浜
プラスチック類	843	331	527
発泡スチロール類	5	11	12
ゴム類	30	5	9
ガラス、陶器	20	8	4
金属	15	8	3
紙類	0	1	0
天然繊維、革	4	0	0
木(木材等)	18	13	3
電化製品、電子機器	5	2	0
自然物	1,417	3,136	122
合計	2,357	3,515	680

※プラスチック類、発泡スチロール類の破片について、個数は除外した。

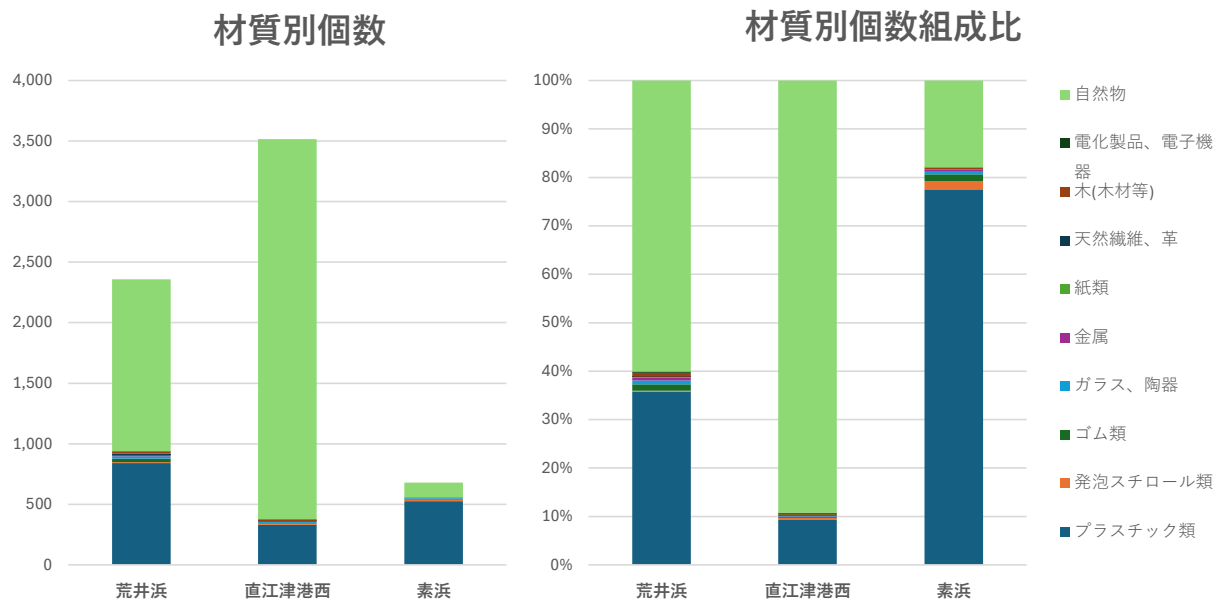


図 4.1 材質別個数

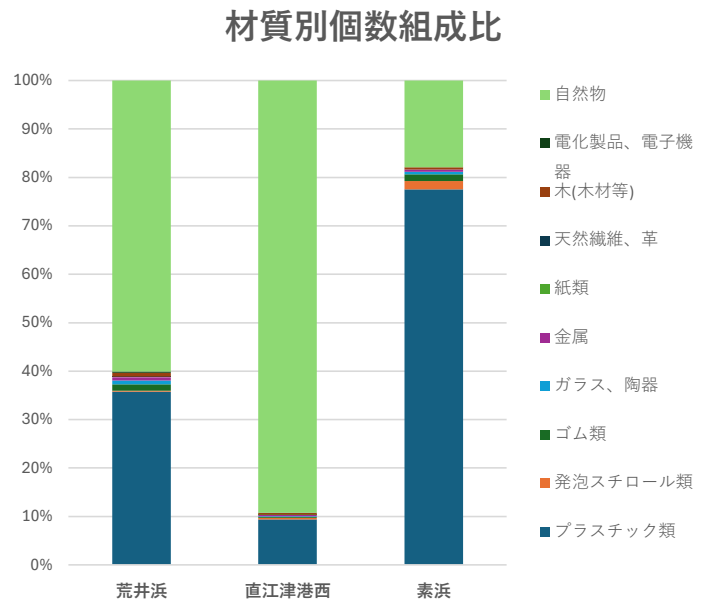


図 4.2 材質別個数組成比

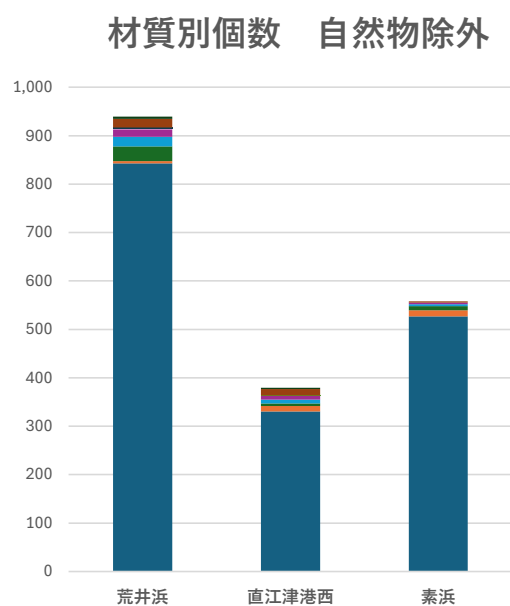


図 4.3 材質別個数(自然物除外)

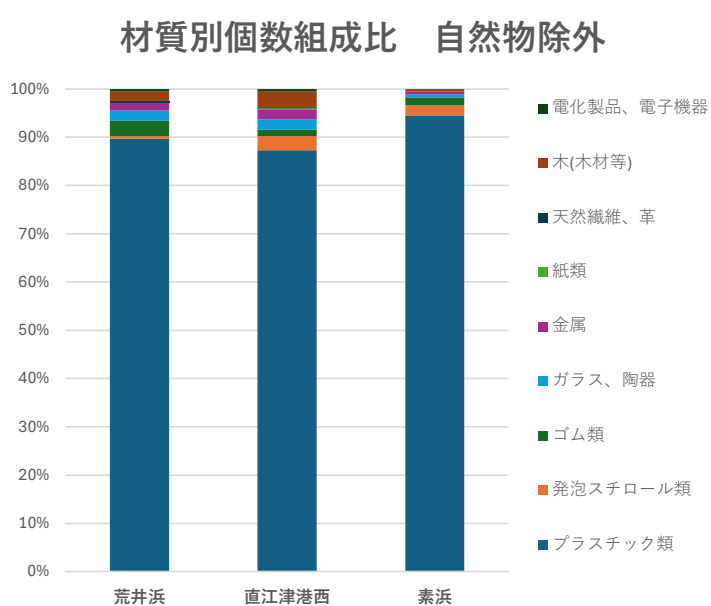


図 4.4 材質別個数組成比(自然物除外)

表 4.2 材質別重量

材質	重量 (kg)		
	荒井浜	直江津港西	素浜
プラスチック類	118.157	10.695	39.770
発泡スチロール類	1.341	1.245	2.190
ゴム類	4.454	0.472	0.958
ガラス、陶器	2.658	1.180	0.937
金属	0.519	0.471	1.280
紙類	0.000	0.002	0.000
天然繊維、革	0.361	0.000	0.000
木(木材等)	36.690	9.378	24.500
電化製品、電子機器	0.510	0.127	0.000
自然物	108.440	169.385	26.000
合計	273.130	192.955	95.635

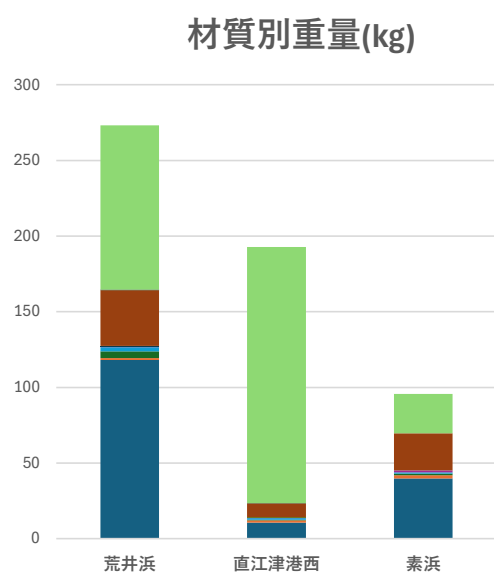


図 4.5 材質別重量

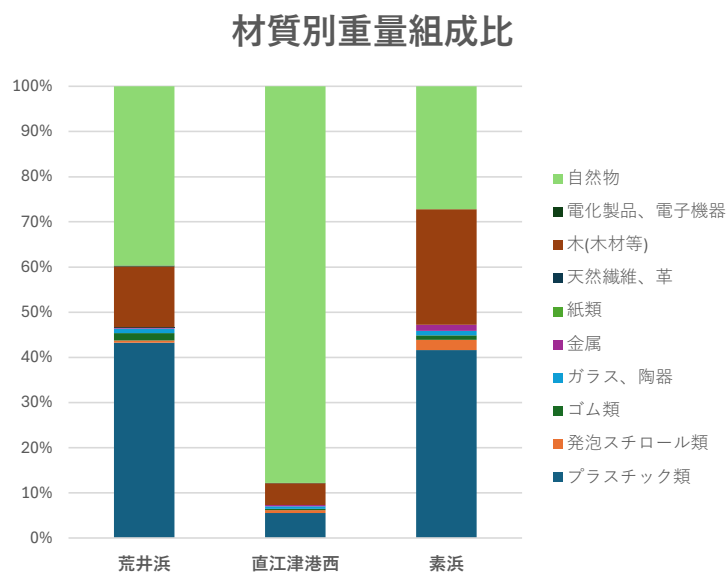


図 4.6 材質別重量組成比

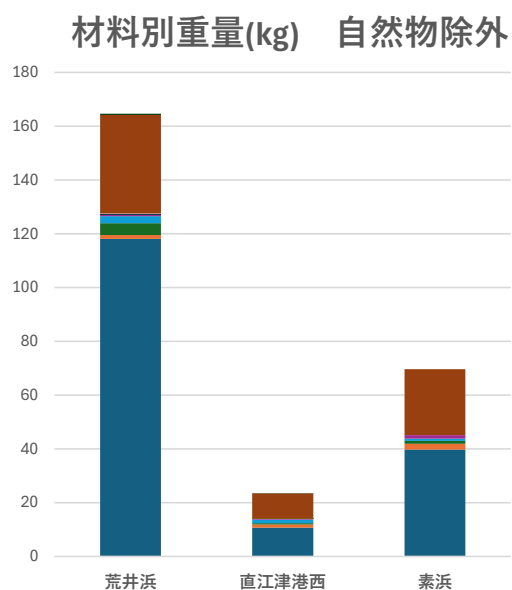


図 4.7 材質別重量(自然物除外)

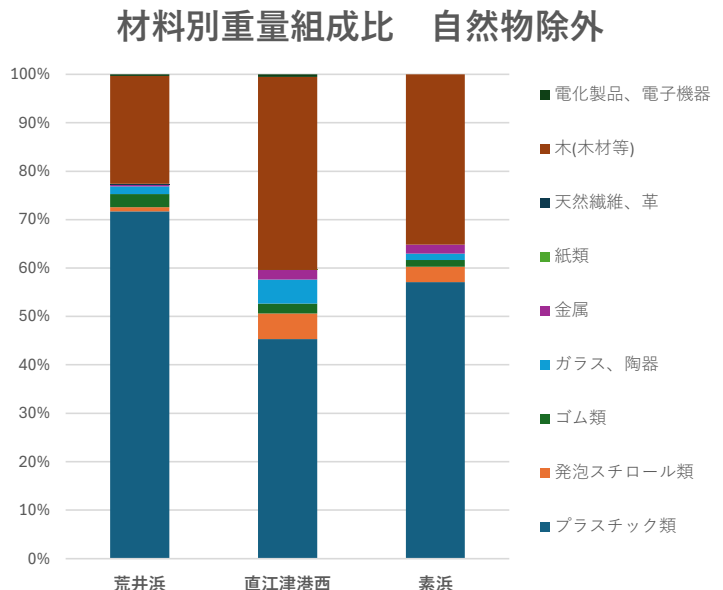


図 4.8 材質別重量組成比(自然物除外)

4.2 プラスチック類分類別

プラスチック類分類別個数を表 4.3 及び図 4.9、組成比を図 4.10 に示す。

プラスチック類分類別重量を表 4.4 及び図 4.11、組成比を図 4.12 に示す。

結果の概要は以下の通りである。

○分類別個数

総数は荒井浜が最も多く、直江津港西海岸が最も少なかった。

組成は全ての地点で容器包装が最も多く、次いで海域由来であった。また、構成比も全地点で類似しており、容器包装、海域由来で全体の8～9割を占めていた。

○分類別別重量

総重量は荒井浜海岸で最も重く、直江津港西海岸で最も軽かった。

組成は荒井浜海岸と素浜海岸で海域由来が最も多く、直江津港西海岸で容器包装が最も多かった。また、全ての地点で容器包装、海域由来が全体の7～8割を占めていた。

表 4.3 プラスチック類分別個数

分類	個数		
	荒井浜	直江津港西	素浜
容器包装	447	148	249
海域由来	310	120	242
製品	53	41	14
その他	33	22	22
合計	843	331	527

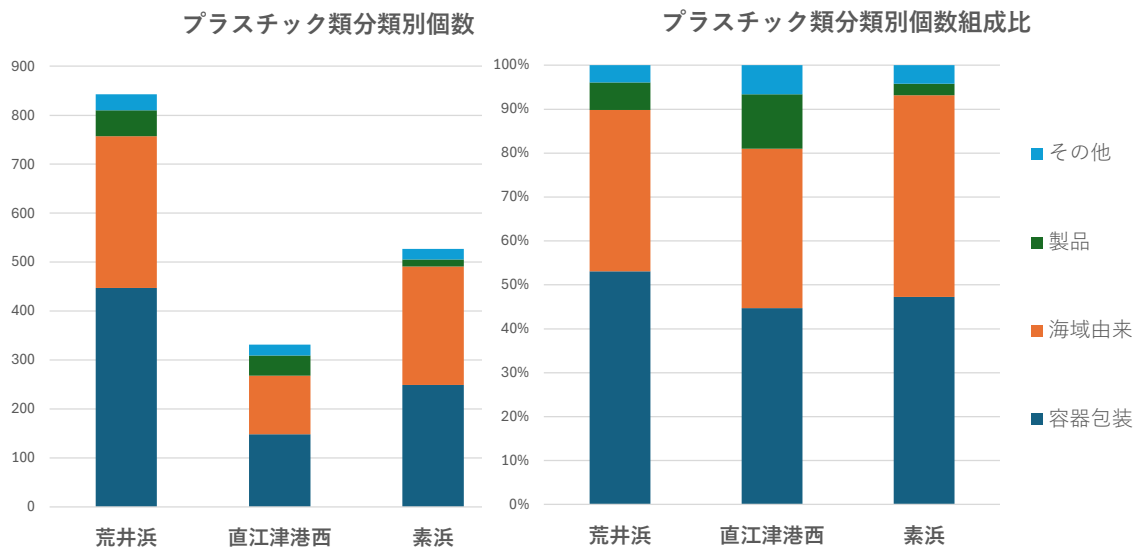


図 4.9 プラスチック類分別個数

図 4.10 プラスチック類分別組成比

表 4.4 プラスチック類分別重量

分類	重量 (kg)		
	荒井浜	直江津港西	素浜
容器包装	20.050	3.997	9.334
海域由来	52.747	2.777	13.335
製品	0.354	0.213	0.072
その他	31.642	1.000	10.563
合計	104.793	7.987	33.304

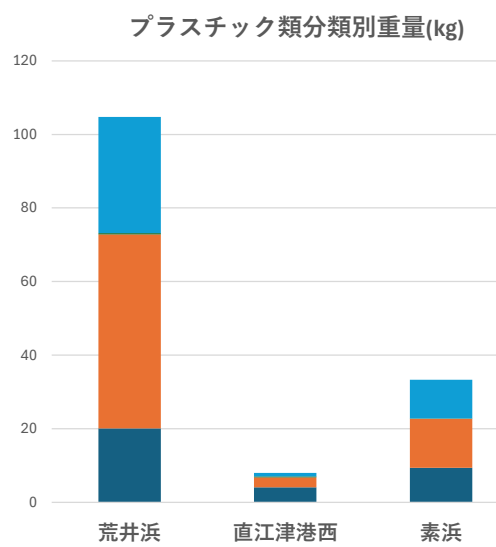


図 4.11 プラスチック類分類別重量

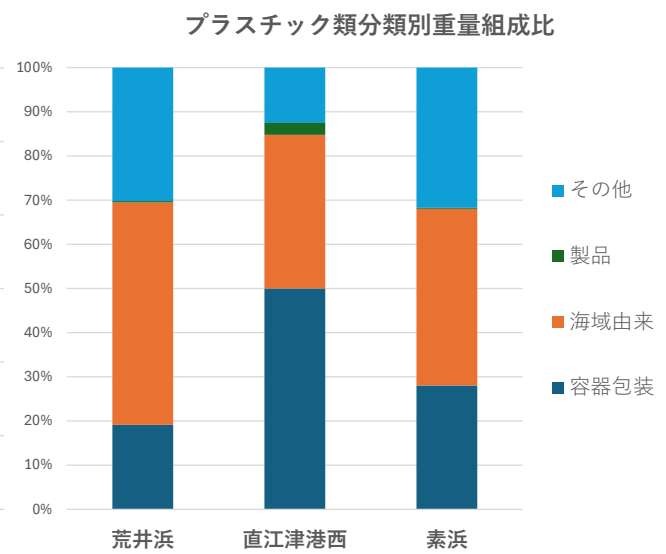


図 4.12 プラスチック類分類重量別組成比

4.3 言語表記等の調査

ペットボトルの製造国及び言語表記別個数を表 4.5 及び図 4.13、図 4.14、図 4.15 に示す。

ペットボトルのキャップの表記言語別個数を表 4.6 及び図 4.16、図 4.17、図 4.18 に示す。

漁業用の浮子の表記言語別個数を表 4.7 及び図 4.19、図 4.20、図 4.21 に示す。

結果の概要は以下の通りである。

○ペットボトル

総数は、荒井浜海岸が最も多く、直江津港西海岸が最も少なかった。

判別不明を除くと荒井浜海岸、素浜海岸で中国・台湾表記が最も多く、直江津港西海岸では日本表記が最も多かった。割合は全ての地点で日本、中国・台湾表記が全体の7～9割を占めていた。

○ペットボトルのキャップ

総数は、荒井浜海岸が最も多く、素浜海岸が最も少なかった。

判別不明を除くと荒井浜海岸で中国・台湾表記が最も多く、素浜海岸で中国・台湾と韓国表記が同数で多く、直江津港西海岸では日本表記が最も多かった。割合は荒井浜海岸、素浜海岸で外国製が9～10割を占めていたが、直江津港西海岸は日本表記が約5割を占めていた。

○漁業用の浮子

総数は、荒井浜海岸が最も多く、直江津港西海岸が最も少なかった。

判別不明を除くと全ての地点で中国・台湾表記が最も多く、ほぼ全てを占めていた。

表 4.5 ペットボトル 製造国・表記言語国別個数

表記言語	個数		
	荒井浜	直江津港西	素浜
日本	13	13	5
中国・台湾	17	11	8
韓国	7	0	2
ロシア	0	0	0
不明(読み取れない)	35	11	31
マレーシア	0	1	0
英語	3	2	0
合計	75	38	46

ペットボトル

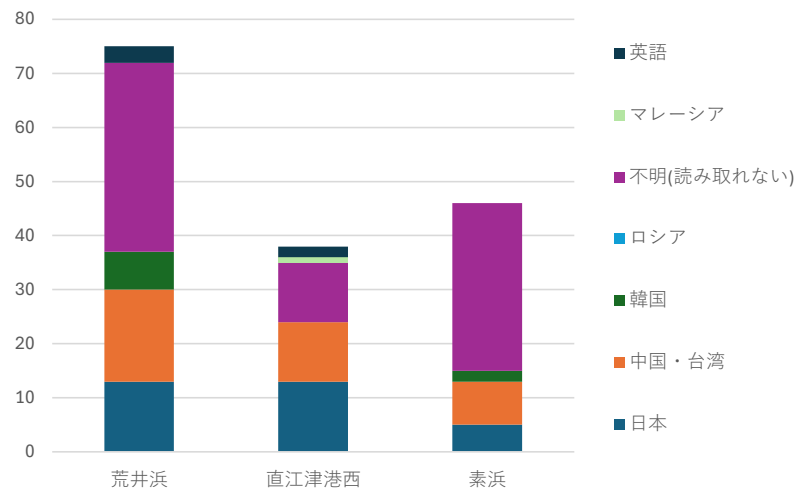


図 4.13 ペットボトル 製造国・表記言語別個数

ペットボトル(不明除外)

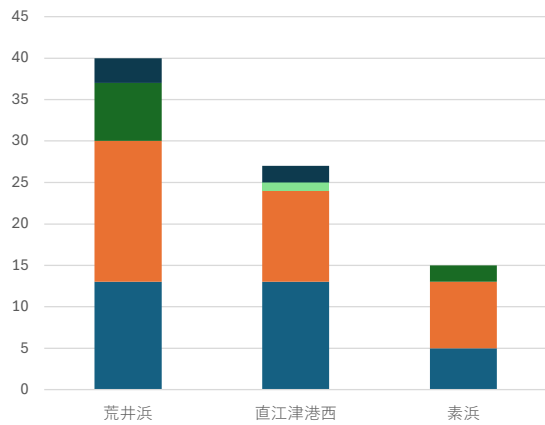


図4.14 ペットボトル
製造国・表記言語別個数(不明除外)

ペットボトル(不明除外)割合

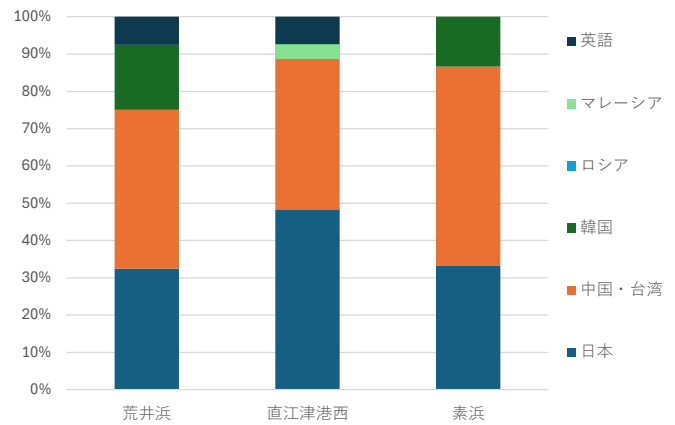


図4.15 ペットボトル製造国・
表記言語別個数(不明除外)割合

表 4.6 ペットボトルのキャップ 表記言語国別個数

表記言語	個 数		
	荒井浜	直江津港西	素浜
日本	5	9	0
中国・台湾	14	4	5
韓国	11	0	5
ロシア	0	0	0
不明(読み取れない)	55	15	16
英語	10	3	2
合計	95	31	28

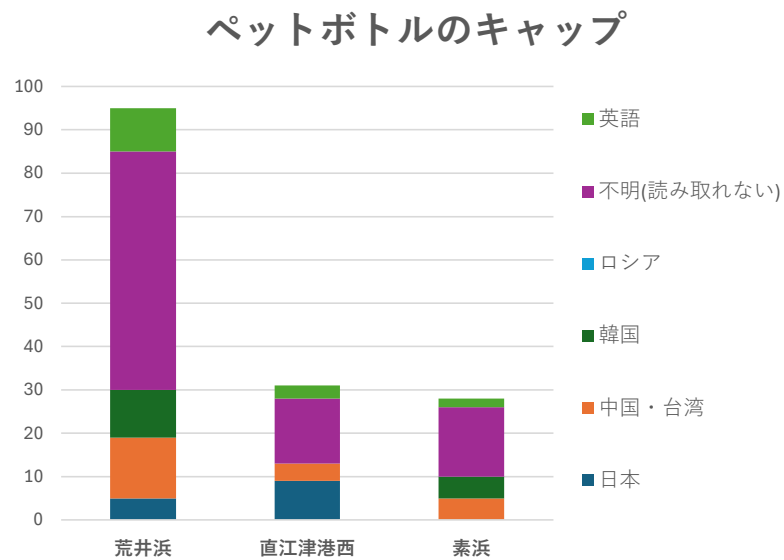


図 4.16 ペットボトル(表記言語) 国別個数比

ペットボトルのキャップ(不明除外)

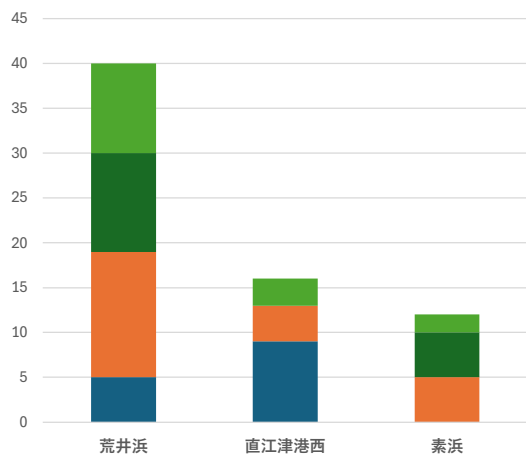


図4.17 ペットボトルのキャップ
表記言語別個数(不明除外)

ペットボトルのキャップ(不明除外)割合

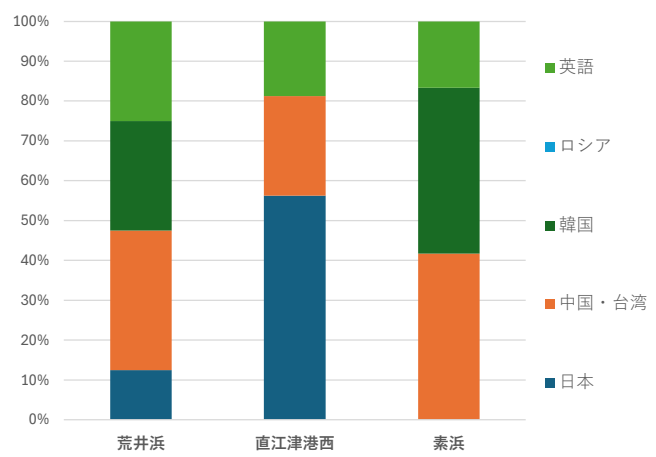


図4.18 ペットボトルのキャップ
表記言語別個数(不明除外)割合

表 4.7 漁業用の浮子 表記言語国別個数

表記言語	個数		
	荒井浜	直江津港西	素浜
日本	1	0	0
中国・台湾	50	15	9
韓国	1	0	0
ロシア	0	0	0
不明(読み取れない)	34	9	22
合計	86	24	31

漁業用の浮子

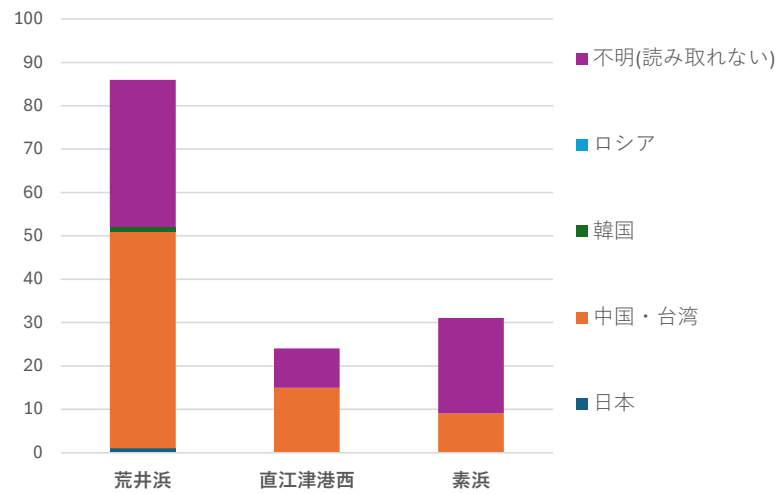


図 4.19 漁業用の浮子 国別個数

漁業用の浮子(不明除外)

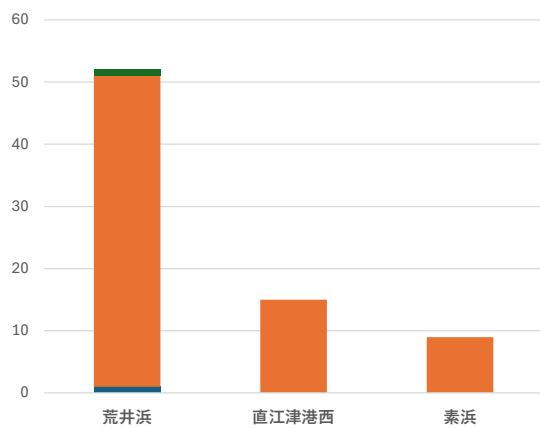


図4.20 漁業用の浮子
表記言語別個数(不明除外)

漁業用の浮子(不明除外)割合

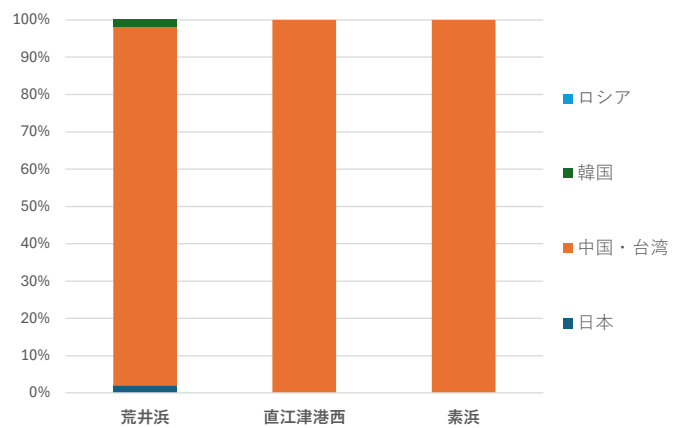


図4.21 漁業用の浮子
表記言語別個数(不明除外)割合

4.4 地域別の特徴

(1) 荒井浜海岸

回収物の重量については、自然物を含めた場合と除外した場合のいずれも全ての地点の中で、最も大きくなっていた。自然物を除外した個数も最も多くなっていた。定期的な清掃が実施されていない海岸であるため、年間を通して漂着物が蓄積されていると考えられる。

(2) 直江津港西海岸

自然物を含めた漂着物総数が最も多く、他の調査地点と比較して重量比、組成比ともに自然物の影響が極めて大きい。一方、自然物を除外した場合の個数及び重量は、全ての地点の中で最も少なく、定期的に清掃が実施されている効果と考えられる。

(3) 素浜海岸

自然物を含む漂着物総数及び重量は全ての地点の中で最も少なく、重量及び個数に対して自然物が占める割合も最も小さかった。調査地点の周辺に河川がないことから、陸地からの流出する流木等が少ないと考えられる。

4.5 本土側と島嶼部の相違点

全ての地点で定期的な清掃を実施しているわけではないため、個数及び重量の比較はできないが、組成比での相違点を抽出した。

材質別個数組成比を図4.22に示す。本土側(荒井浜海岸と直江津港西海岸)と島嶼部(素浜海岸)を比較すると本土側は自然物が6~9割で、島嶼部では2割とかなり少なくほぼ8割がプラスチック類であった。他の地点と違い周辺に河川がなく、陸地から流出される漂着物が少なく、海外からの漂着物が多いと考えられる。

ペットボトルのキャップの判別不明を除いた割合を図4.23に示す。本土側では日本表記のキャップが確認できたが、島嶼部では全て外国表記となったことから海外からの漂着物が多いことが示唆される。

材質別個数組成比

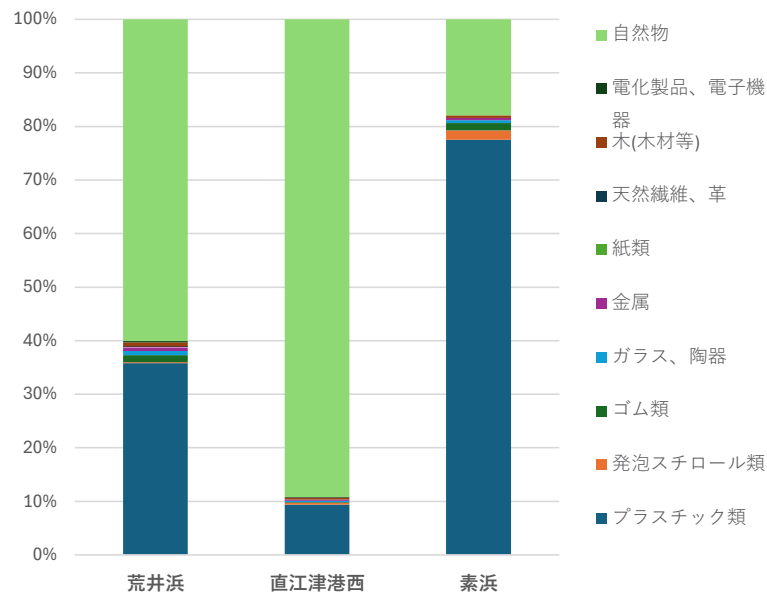


図 4.22 材質別個数組成比

ペットボトルのキャップ(不明除外)割合

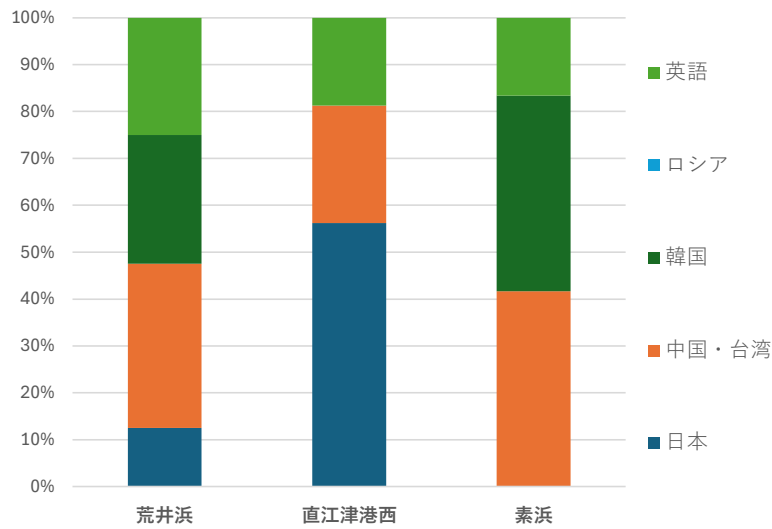


図 4.23 ペットボトルのキャップ(不明除外)割合

5 過年度との比較

調査を実施した3海岸について、過年度の調査結果と比較を行った。

5.1 荒井浜海岸

材質別重量を表 5.1 及び図 5.1 に、自然物を除去した場合を図 5.2 に示す。

材質別重量割合を表 5.2 及び図 5.3 に、自然物を除去した場合を図 5.4 に示す。

自然物を含め、変動が激しく、年度により回収量に差が出ている。特に自然物、プラスチック類の変動が大きく、総量に影響を与えている。自然物以外の割合ではプラスチック類が7～9割を占めており、組成の経年変化はあまり見られない。

表 5.1 材質別重量比較 荒井浜海岸

材質	重量 (kg)				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度	令和7年度
プラスチック類	81.190	32.454	41.302	137.140	118.157
発泡スチロール類	2.350	0.455	0.647	3.480	1.341
ゴム類	2.470	0.712	1.400	5.030	4.454
ガラス、陶器	9.300	1.651	4.100	4.320	2.658
金属	1.610	0.490	2.551	1.330	0.519
紙類	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000
天然繊維、革	0.000	0.388	0.143	0.010	0.361
木(木材等)	13.960	1.260	1.683	28.100	36.690
電化製品、電子機器	0.000	0.000	0.000	0.000	0.510
自然物	357.510	355.524	90.420	267.420	108.440
合計	468.400	392.934	142.246	446.830	273.130

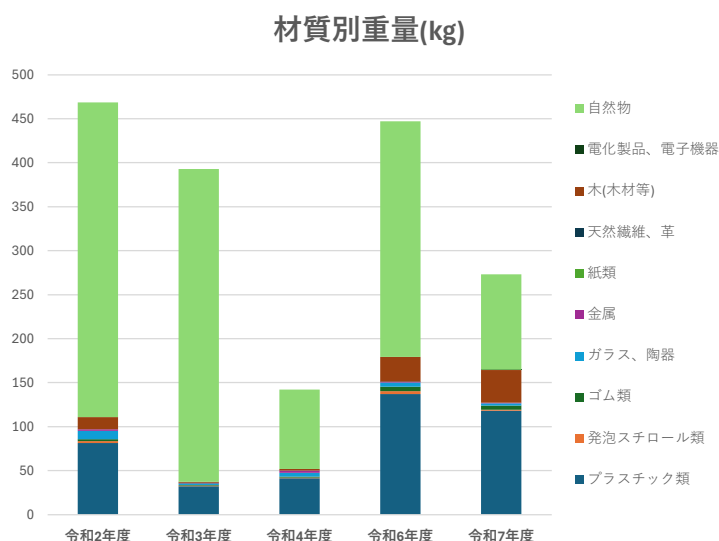


図 5.1 材質別重量比較 荒井浜海岸

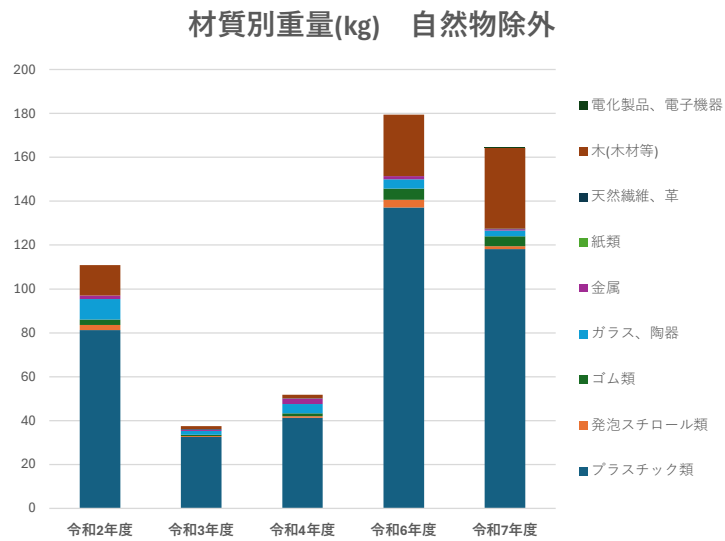


図 5.2 材質別重量比較(自然物除外) 荒井浜海岸

表 5.2 材質別重量割合比較 荒井浜海岸

材質	割合				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度	令和7年度
プラスチック類	17.3%	8.3%	29.0%	30.7%	43.3%
発泡スチロール類	0.5%	0.1%	0.5%	0.8%	0.5%
ゴム類	0.5%	0.2%	1.0%	1.1%	1.6%
ガラス、陶器	2.0%	0.4%	2.9%	1.0%	1.0%
金属	0.3%	0.1%	1.8%	0.3%	0.2%
紙類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
天然繊維、革	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%
木(木材等)	3.0%	0.3%	1.2%	6.3%	13.4%
電化製品、電子機器	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
自然物	76.3%	90.5%	63.6%	59.8%	39.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

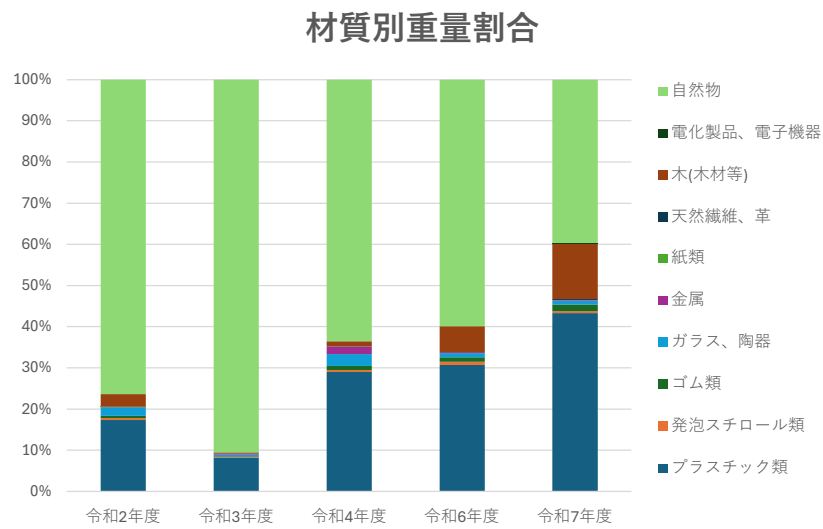


図 5.3 材質別重量割合比較 荒井浜海岸

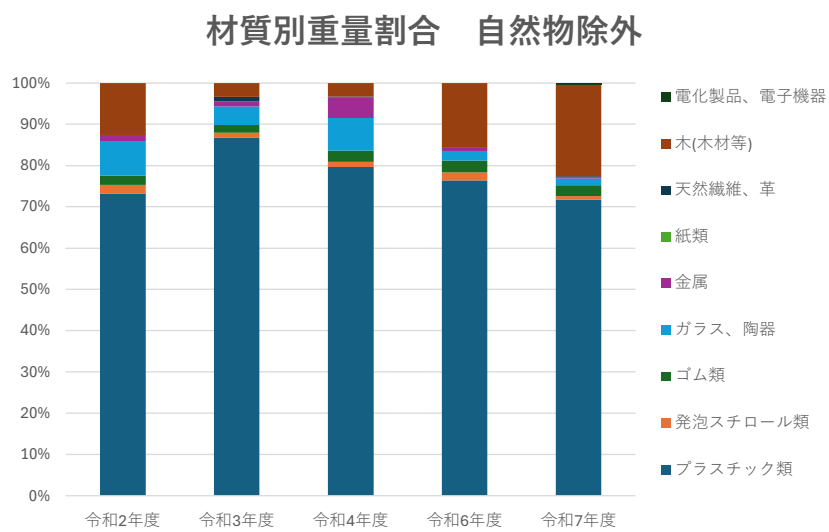


図 5.4 材質別重量割合比較(自然物除外) 荒井浜海岸

5.2 直江津港西海岸

材質別重量を表 5.3 及び図 5.5 に、自然物を除去した場合を図 5.6 に示す。

材質別重量割合を表 5.4 及び図 5.7 に、自然物を除去した場合を図 5.8 に示す。

今回から調査地点の変更があったため、漂着物回収重量はかなり減少した。材質別重量割合は最も多い自然物が7～9割であった。また、自然物を除去した場合はプラスチック類が最も多く5～8割であり、令和3年度を除く組成にほぼ変化はなかった。

表 5.3 材質別重量比較 直江津港西海岸

材質	重量 (kg)				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度
プラスチック類	144.700	78.630	67.023	78.051	10.695
発泡スチロール類	0.300	0.435	0.428	1.590	1.245
ゴム類	5.500	5.712	4.800	3.400	0.472
ガラス、陶器	5.800	3.210	1.300	5.030	1.180
金属	1.900	2.290	0.825	4.640	0.471
紙類	0.100	0.213	0.192	0.930	0.002
天然繊維、革	0.000	1.120	0.000	0.070	0.000
木(木材等)	104.900	2.985	43.000	70.998	9.378
電化製品、電子機器	0.000	0.020	0.000	0.070	0.127
自然物	958.900	231.624	1,226.572	661.819	169.385
合計	1,222.100	326.239	1,344.140	826.598	192.955

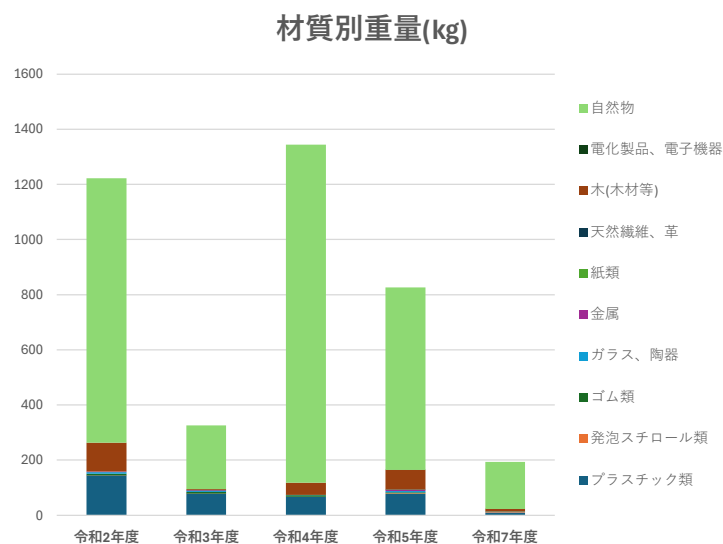


図 5.5 材質別重量比較 直江津港西海岸

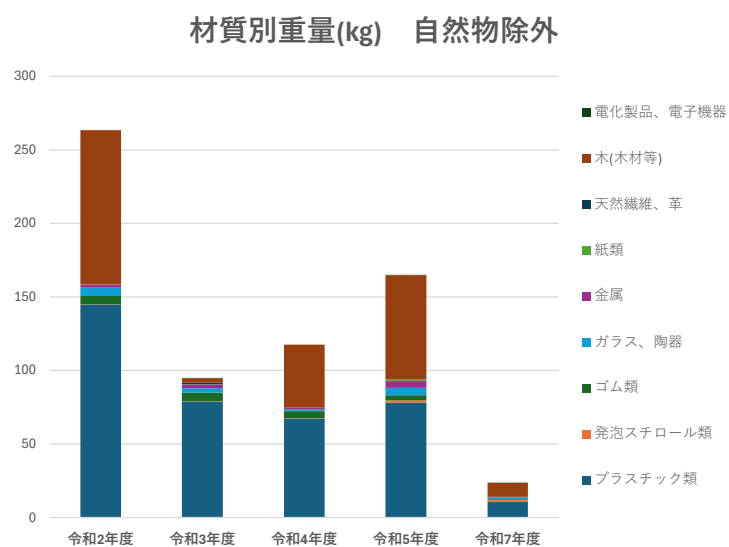


図 5.6 材質別重量比較(自然物除外) 直江津港西海岸

表 5.4 材質別重量割合比較 直江津港西海岸

材質	割合				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度
プラスチック類	11. 8%	24. 1%	5. 0%	9. 4%	5. 5%
発泡スチロール類	0. 0%	0. 1%	0. 0%	0. 2%	0. 6%
ゴム類	0. 5%	1. 8%	0. 4%	0. 4%	0. 2%
ガラス、陶器	0. 5%	1. 0%	0. 1%	0. 6%	0. 6%
金属	0. 2%	0. 7%	0. 1%	0. 6%	0. 2%
紙類	0. 0%	0. 1%	0. 0%	0. 1%	0. 0%
天然繊維、革	0. 0%	0. 3%	0. 0%	0. 0%	0. 0%
木(木材等)	8. 6%	0. 9%	3. 2%	8. 6%	4. 9%
電化製品、電子機器	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 1%
自然物	78. 5%	71. 0%	91. 3%	80. 1%	87. 8%
合計	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%

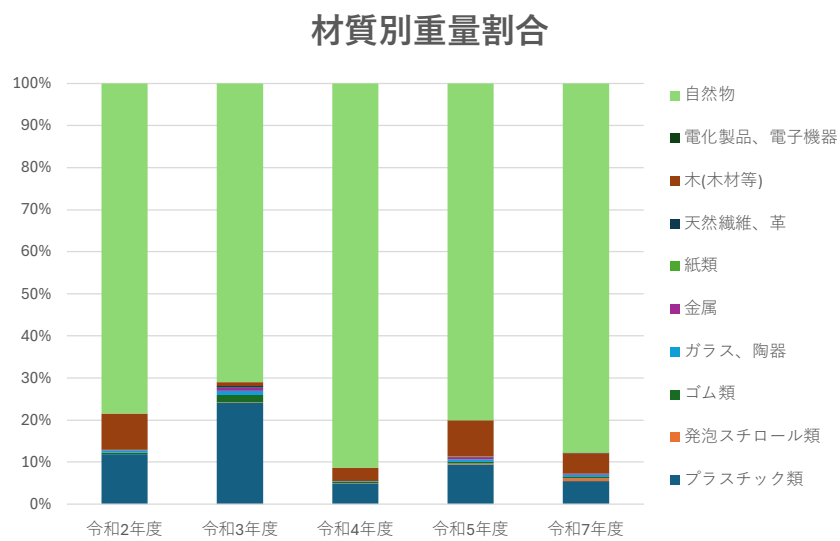


図 5.7 材質別重量割合比較 直江津港西海岸

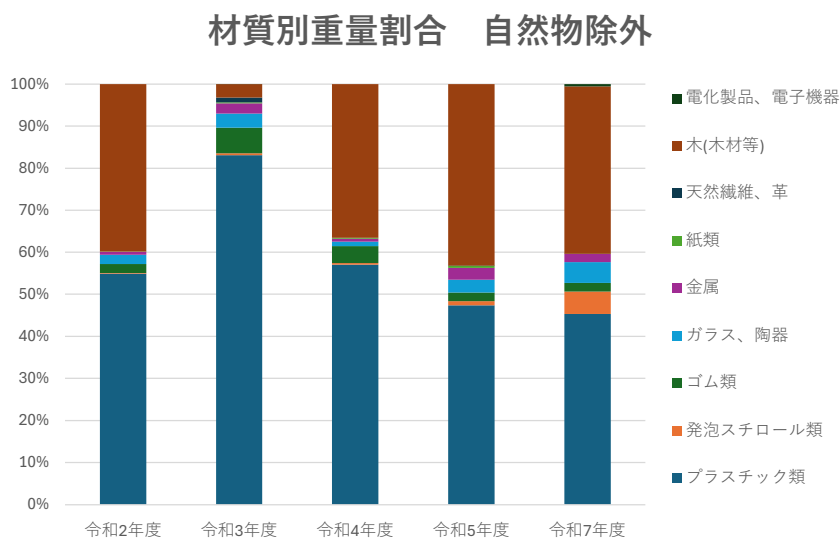


図 5.8 材質別重量割合比較(自然物除外) 直江津港西海岸

5.3 素浜海岸

材質別重量を表 5.5 及び図 5.9 に、自然物を除去した場合を図 5.10 に示す。

材質別重量割合を表 5.6 及び図 5.11 に、自然物を除去した場合を図 5.12 に示す。

令和4年度から今年度にかけて、回収量が増加していることが確認できる。自然物及び木(木材等)による変動があるが、他の地域と比較してプラスチック類の重量は変化が少ない。海外からのプラスチック類の漂着物が継続的にあるためと考えられる。

表 5.5 材質別重量比較 素浜海岸

材質	重量 (kg)				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
プラスチック類	60.963	25.011	44.730	33.690	39.770
発泡スチロール類	1.613	1.229	0.780	0.460	2.190
ゴム類	2.183	0.436	0.580	1.770	0.958
ガラス、陶器	3.440	0.830	1.510	1.290	0.937
金属	0.402	0.250	0.440	0.000	1.280
紙類	0.007	0.003	0.000	1.400	0.000
天然繊維、革	0.000	0.021	0.000	0.070	0.000
木(木材等)	5.680	9.000	0.830	6.990	24.500
電化製品、電子機器	0.085	0.000	0.005	0.000	0.000
自然物	98.391	12.800	6.160	35.920	26.000
合計	172.764	49.580	55.035	81.590	95.635

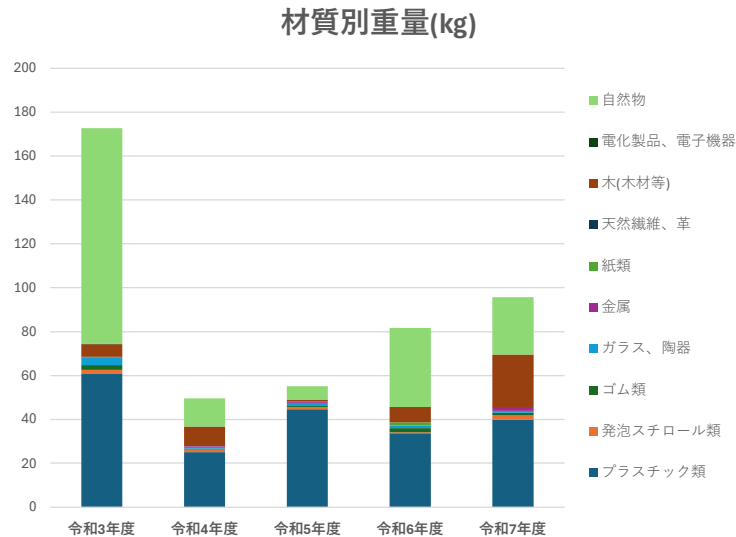


図 5.9 材質別重量比較 素浜海岸

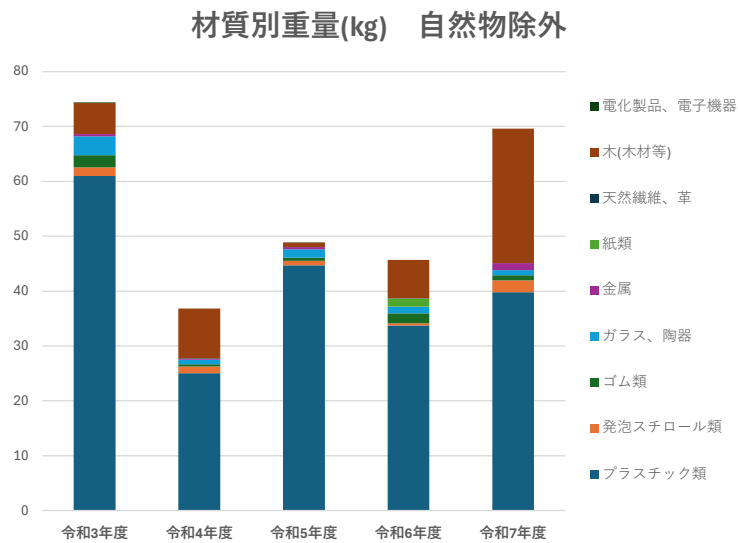


図 5.10 材質別重量比較(自然物除外) 素浜海岸

表 5.6 材質別重量割合比較 素浜海岸

材質	割合				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
プラスチック類	35. 3%	50. 4%	81. 3%	41. 3%	41. 6%
発泡スチロール類	0. 9%	2. 5%	1. 4%	0. 6%	2. 3%
ゴム類	1. 3%	0. 9%	1. 1%	2. 2%	1. 0%
ガラス、陶器	2. 0%	1. 7%	2. 7%	1. 6%	1. 0%
金属	0. 2%	0. 5%	0. 8%	0. 0%	1. 3%
紙類	0. 0%	0. 0%	0. 0%	1. 7%	0. 0%
天然繊維、革	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 1%	0. 0%
木(木材等)	3. 3%	18. 2%	1. 5%	8. 6%	25. 6%
電化製品、電子機器	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%
自然物	57. 0%	25. 8%	11. 2%	44. 0%	27. 2%
合計	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%

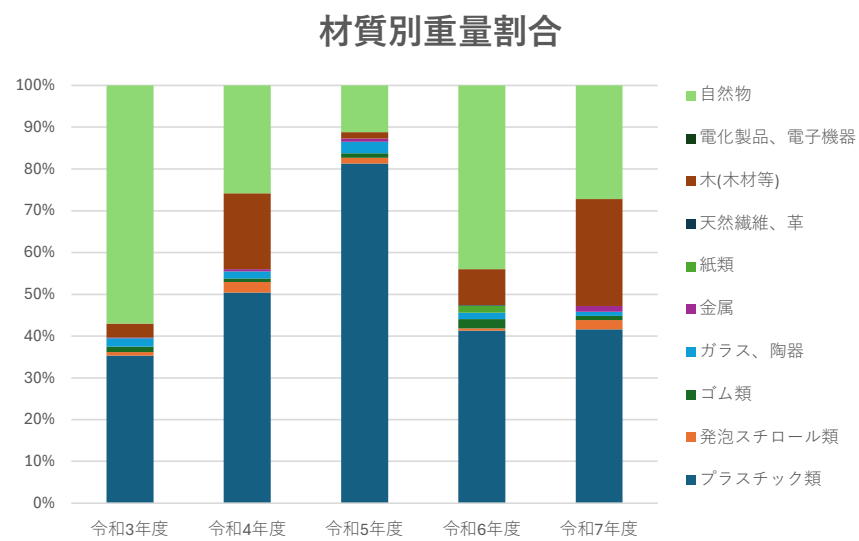


図 5.11 材質別重量割合比較 素浜海岸

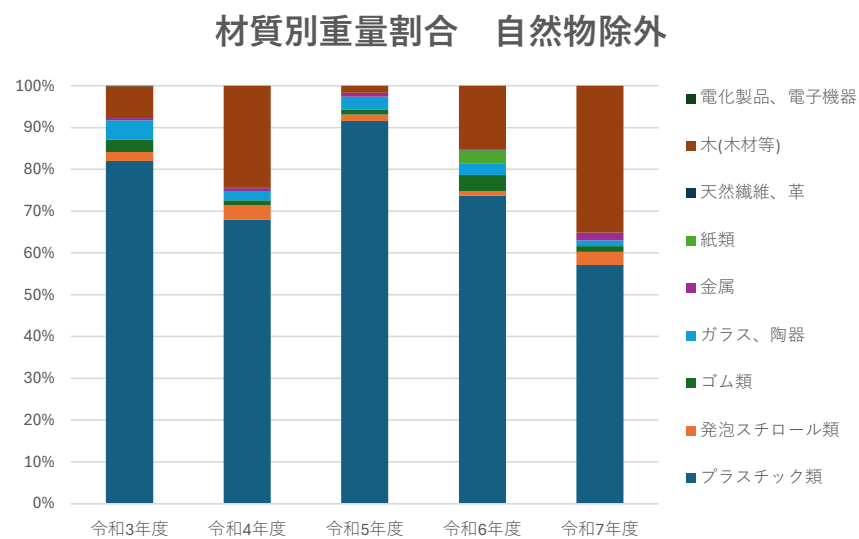


図 5.12 材質別重量割合比較(自然物除外) 素浜海岸